

令和6年度厚生労働省・岩手県委託事業

薬剤師確保のための実態調査

報 告 書

令和7年2月

一般社団法人岩手県薬剤師会

目 次

1	事業の概要	
(1)	薬剤師確保対策に係る現状と課題	… p. 1
(2)	薬剤師確保対策に係る課題解決に向けた取り組み	… p. 2
(3)	事業の実施概要	… p. 3
2	アンケート調査の実施結果	
(1)	県内薬局	… p. 4
(2)	県内病院	… p. 24
(3)	県内の薬局、病院に勤務する40歳未満の薬剤師	… p. 49
(4)	県内の薬学部 に在籍する学生	… p. 69
	【資料編】	… p. 76
	・ 調査項目	

1 事業の概要

(1) 薬剤師確保対策に係る現状と課題

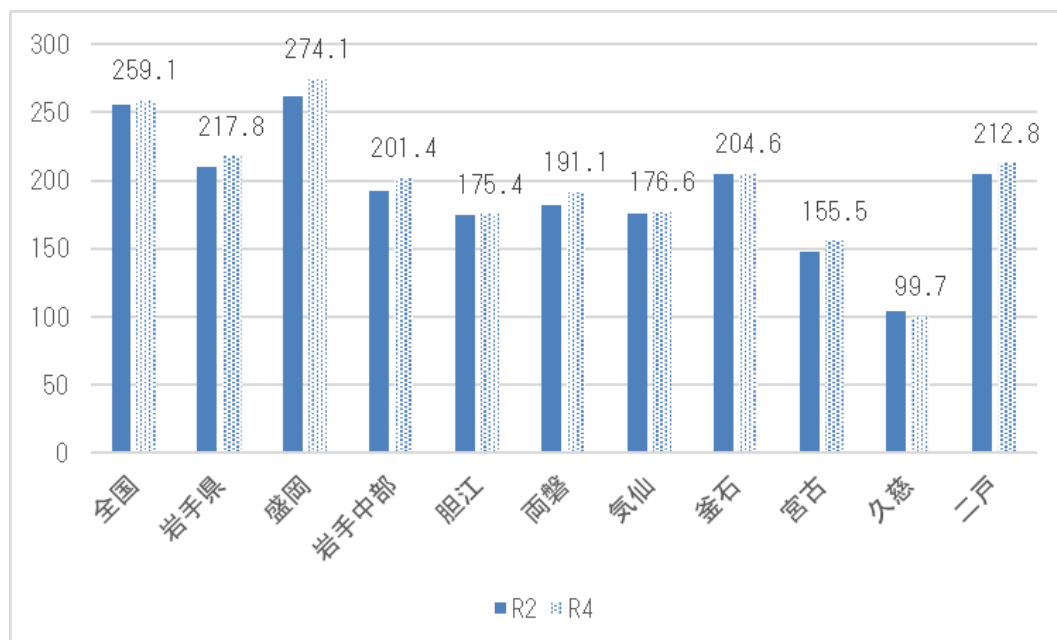
【現状と課題】

○ 薬剤師については、地域医療における薬物療法の有効性・安全性の確保や公衆衛生の向上及び健康維持・増進の支援等に資するため、調剤等の業務に加え、患者・住民との関わりの度合いの高い対人業務へとシフトすることが求められている。病院薬剤師にあつては病棟薬剤業務やチーム医療等、薬局薬剤師にあつては在宅医療や高度な薬学的管理を行う機能等を中心とした業務の更なる充実が求められている。

また、入退院時等におけるシームレスな薬学的管理を実践するため、病院薬剤師及び薬局薬剤師は、地域の薬局等の関連機関や機能の異なる医療機関との連携に係る業務にも関与していく必要があり、これらに対応するため、薬剤師の確保が重要な課題となっている。

○ 本県の薬剤師数は2,572人（令和4（2022）年末現在）であり、人口10万人当たりでは217.8人で、全国259.1人の約84.1%、全国順位第34位となっている。二次保健医療圏別では、盛岡医療圏以外の圏域が全国を下回るとともに、盛岡保健医療圏の274.1人に対し、久慈保健医療圏は99.7人と、県内における薬剤師の偏在が生じている。（図表1）

（図表1）保健医療圏別の薬剤師数（人口10万対）



○ 本県の薬剤師の主な従事場所は、薬局1,685人(65.5%)、病院・診療所524人(20.4%)、その他医薬品関係企業等363人(14.1%)となっている。

○ 厚生労働省が算定・公表した薬剤師偏在指標では、本県は「病院薬剤師」が0.64で全国順位43位、「薬局薬剤師」が0.97で全国順位23位となっている。（図表2）

- 「病院薬剤師」は全ての医療圏で目標偏在指標（1.0）を下回っており、業態による偏在がみられる。（図表2）。

（図表2）薬剤師偏在指標 ※二次医療圏は全部で335カ所

圏域等	病院薬剤師			薬局薬剤師		
	偏在指標	全国順位	区分	偏在指標	全国順位	区分
岩手県	0.64	43	薬剤師少数都道府県	0.97	23	—
盛岡	0.74	119	—	1.19	29	薬剤師多数区域
岩手中部	0.5	302	薬剤師少数区域	0.98	125	—
胆江	0.53	287	薬剤師少数区域	0.88	184	—
両磐	0.58	250	薬剤師少数区域	0.86	198	—
気仙	0.7	153	薬剤師少数区域	0.77	247	—
釜石	0.68	168	薬剤師少数区域	0.81	227	—
宮古	0.54	281	薬剤師少数区域	0.69	292	薬剤師少数区域
久慈	0.62	227	薬剤師少数区域	0.47	332	薬剤師少数区域
二戸	0.88	44	—	0.93	150	—

- 薬剤師確保計画ガイドラインに基づき算出した要確保病院薬剤師数は、目標年次（2036年）で287人、1計画期間（2026年）で83人となっている。（図表3）

（図表3）要確保薬剤師数

圏域	目標年次（2036年）（参考）				1計画期間（2026年）			
	病院（人）		薬局（人）		病院（人）		薬局（人）	
	目標	要確保	目標	要確保	目標	要確保	目標	要確保
盛岡	352	119	708	—	247	14	708	—
岩手中部	120	61	291	—	88	29	291	—
胆江	76	35	159	1	57	16	158	—
両磐	79	32	153	2	59	12	151	—
気仙	29	7	72	4	22	1	68	—
釜石	31	7	54	—	25	1	54	—
宮古	40	17	93	13	32	8	80	—
久慈	29	10	66	29	21	3	53	16
二戸	22	—	74	—	22	—	74	—
計	777	287	1,669	48	574	83	1,637	16

（2）薬剤師確保対策に係る課題解決に向けた取り組み

令和4年度厚生労働省医薬・生活衛生局総務課委託事業薬剤師確保のための調査・検討事業「薬剤師確保に係る調査」（以下「令和4年度厚生労働省調査」という。）により、全国的な偏在の状況を統一的、客観的に捉えた薬剤師偏在指標が示されたが、県内の具体的な状況の把握には至っていない。

このことから、県内の病院及び薬局への調査を行い、県内の病院薬剤師及び薬局薬剤師の就労状況、不足・充足状況等を把握し、支援すべき医療機関等の判断を行う。

(3) 事業の実施概要

○ 業務の名称

薬剤師確保対策調査事業委託

○ 目的

県内の病院及び薬局並びに薬剤師等に対し調査を行い、薬剤師確保及び薬剤師の地域偏在、業態偏在の解消に向けた方策の検討に資することを目的とする。

○ 業務の内容

本県における薬剤師確保及び薬剤師の地域偏在、業態偏在の解消に向けた方策の検討・構築に資することを目的として、県内の病院及び薬局並びに薬剤師及び薬学生に対しアンケート調査を行う。

① 調査の対象

ア 県内薬局

イ 県内病院

ウ 県内の薬局、病院に勤務する40 歳未満の薬剤師

エ 県内の薬学部に通学する学生

② 調査の実施

ア 調査票の作成

イ 周知

ウ 発送及び回収

③ 調査結果の集計

調査結果のとりまとめ

○ 実施期間

令和6年10月16日から令和7年2月28日まで

2 アンケート調査の実施結果

(1) 県内薬局

岩手県内に所在する薬局（627施設。令和6年10月1日時点。）にアンケート用紙を送付し、開設者又は管理薬剤師（以下「開設者等」という。）若しくは開設者等から委任された方に回答を依頼し、Webフォームで回答いただいた。

<回答数 467施設（回答率：74.5%）>

【薬局が所在する2次保健医療圏】

盛岡	200 (42.8%)
岩手中部	89 (19.1%)
胆江	45 (9.6%)
両磐	42 (9.0%)
気仙	21 (4.5%)
釜石	14 (3.0%)
宮古	21 (4.5%)
久慈	15 (3.2%)
二戸	20 (4.3%)

【薬局の基本情報】

① 事業形態

株式会社	280 (60.0%)
有限会社	153 (32.8%)
公益・一般社団法人 財団法人	5 (1.1%)
個人	22 (4.7%)
その他（協同組合）	1 (0.2%)
その他（合同会社）	1 (0.2%)
その他（合資会社）	5 (1.1%)

② 営業形態

薬局のみ	336 (71.9%)
薬局と店舗販売業の併設	129 (27.6%)
その他（薬局と介護施設）	1 (0.2%)
その他（有料老人ホーム等）	1 (0.2%)

③ 認定等の状況（複数選択可）

地域連携薬局	56 (12.0%)
専門医療機関連携薬局	1 (0.2%)
健康サポート薬局	47 (10.1%)
いずれにも該当しない	388 (83.1%)

④ 在宅患者訪問薬剤管理指導の届出

あり	349 (74.7%)
なし	118 (25.3%)

⑤ 同一経営主体の薬局店舗数

「1施設」が最も多く(24.0%)、次いで「2施設」(14.3%)、「4施設」(8.1%)、「3施設」(6.0%)の順であり、10施設以下が約6割(60.8%)であった。

店舗数	件数	割合
1施設	112	24.0%
2施設	67	14.3%
3施設	28	6.0%
4施設	38	8.1%
5施設	15	3.2%
6施設	7	1.5%
7施設	13	2.8%
8施設	4	0.9%
12施設	4	0.9%
13施設	2	0.4%
14施設	3	0.6%
15施設	3	0.6%
16施設	1	0.2%
21施設	10	2.1%
27施設	1	0.2%
29施設	2	0.4%
30施設	6	1.3%
40施設	3	0.6%
41施設	1	0.2%
42施設	9	1.9%
43施設	28	6.0%
44施設	1	0.2%
45施設	3	0.6%
46施設	1	0.2%
52施設	10	2.1%
53施設	1	0.2%
63施設	1	0.2%
65施設	4	0.9%
67施設	1	0.2%
80施設	1	0.2%
89施設	1	0.2%
90施設	1	0.2%

店舗数	件数	割合
1～10施設	284	60.8%
11～20施設	13	2.8%
21～30施設	19	4.1%
31～40施設	3	0.6%
41～50施設	43	9.2%
51～60施設	11	2.4%
61～70施設	6	1.3%
71～80施設	1	0.2%
81～90施設	2	0.4%
91～100施設	2	0.4%
101施設以上	83	17.8%

97 施設	1	0.2%
100 施設	1	0.2%
130 施設	2	0.4%
150 施設	1	0.2%
151 施設	1	0.2%
152 施設	1	0.2%
155 施設	1	0.2%
172 施設	1	0.2%
173 施設	3	0.6%
181 施設	1	0.2%
182 施設	1	0.2%
187 施設	2	0.4%
188 施設	1	0.2%
200 施設	1	0.2%
400 施設	1	0.2%
410 施設	2	0.4%
415 施設	1	0.2%
417 施設	1	0.2%
430 施設	1	0.2%
471 施設	1	0.2%
500～600 施設	1	0.2%
507 施設	1	0.2%
600 施設	1	0.2%
637 施設	1	0.2%
650 施設	1	0.2%
670 施設	1	0.2%
約 700 施設	1	0.2%
711 施設	1	0.2%
713 施設	1	0.2%
735 施設	4	0.9%
737 施設	2	0.4%
746 施設	1	0.2%
750 施設	1	0.2%
751 施設	3	0.6%
762 施設	1	0.2%
798 施設	1	0.2%
799 施設	1	0.2%
890 施設	2	0.4%
900 施設	1	0.2%
949 施設	1	0.2%

950 施設	2	0.4%
955 施設	6	1.3%
971 施設	1	0.2%
1,100 施設	1	0.2%
1,200 施設	2	0.4%
1,235 施設	1	0.2%
1,247 施設	1	0.2%
1,248 施設	6	1.3%
1,300 施設	1	0.2%
1,400 施設	1	0.2%
1,804 施設	1	0.2%
1,913 施設	1	0.2%
1,977 施設	1	0.2%
2,000 施設	3	0.6%
2,199 施設	1	0.2%
2,300 施設	1	0.2%
2,564 施設	1	0.2%
3,008 施設	1	0.2%
3,406 施設	1	0.2%

⑥ （業務の効率化に資する）調剤機器※の導入の有無

※ 一包化支援、監査支援、薬剤の取り揃え、外用剤や液剤の調製等の場面で
使用される、調剤にかかる業務の効率化に資する機器を想定。

導入している	393施設（84.2%）
導入していない	74施設（15.8%）

⑦ 2024年10月末時点で届け出ている又は2024年10月の1か月間に、算定している調剤報酬項目

地域支援体制加算を算定している薬局が約3割（28.3%）、連携強化加算を算定している薬局が6割超（64.2%）、医療DX推進体制整備加算を算定している薬局が7割超（76.7%）、かかりつけ薬剤師指導料を算定している薬局が約半数（46.9%）、在宅訪問薬剤管理業務を実施している薬局が約半数（在宅患者訪問薬剤管理指導料38.3%、居宅療養管理指導48.4%）であった。

地域支援体制加算 1	61（13.1%）
地域支援体制加算 2	40（8.6%）
地域支援体制加算 3	17（3.6%）
地域支援体制加算 4	14（3.0%）
連携強化加算	300（64.2%）
医療DX推進体制整備加算	358（76.7%）
かかりつけ薬剤師指導料	219（46.9%）

かかりつけ薬剤師包括管理料	42 (9.0%)
在宅患者訪問薬剤管理指導料	179 (38.3%)
居宅療養管理指導	226 (48.4%)
在宅薬学総合体制加算 1	95 (20.3%)
在宅薬学総合体制加算 2	21 (4.5%)
退院時共同指導料	5 (1.1%)
上記のうち該当するものはない	62 (13.3%)

【薬剤師の確保状況等】

① 薬機法に基づく薬剤師法定必要数（薬剤師標準数）

1 人が最も多く（38.3%）、次いで 2 人（35.3%）、3 人（15.8%）の順であった。

人数	件数	割合
1 人	179	38.3%
2 人	165	35.3%
3 人	74	15.8%
4 人	15	3.2%
5 人	1	0.2%
6 人	4	0.9%
9 人	1	0.2%
10 人	1	0.2%
11 人～20 人	6	1.3%
21 人～30 人	12	2.6%
31 人～40 人	3	0.6%
41 人～50 人	3	0.6%
51 人以上※	3	0.6%

※110人、133人、290人

② 2024年10月末時点における薬剤師数

薬剤師の定員、薬剤師数ともに、常勤では 1 人が最も多く、次いで 2 人、3 人、4 人の順であった。非常勤では、1 人ないし 2 人という施設が多かった。

薬剤師以外の職員数は、常勤では 2 人が最も多く（32.7%）、次いで 3 人（24.6%）、1 人（17.3%）の順であった。

出身別では、県内出身者が 6 割超（66.0%）であった。

ア 薬剤師の定員

常勤		非常勤	
		実人数	常勤換算
1人	168 (35.9%)	113 (24.1%)	60 (12.8%) ※ ¹
2人	125 (26.7%)	46 (9.8%)	8 (1.7%) ※ ²
3人	78 (16.7%)	10 (2.1%)	3 (0.6%) ※ ³
4人	49 (10.4%)	4 (0.9%)	3 (0.6%) ※ ⁴
5人	16 (3.4%)	4 (0.9%)	1 (0.2%) ※ ⁵
6人	5 (1.1%)	2 (0.4%)	1 (0.2%) ※ ⁶
7人	4 (0.9%)	1 (0.2%)	1 (0.2%) ※ ⁷
8人	2 (0.4%)	1 (0.2%)	
9人	2 (0.4%)	2 (0.4%)	
10人	1 (0.2%)		
11人	3 (0.6%)		
12人	1 (0.2%)	1 (0.2%)	
14人		1 (0.2%)	
15人		1 (0.2%)	
19人	1 (0.2%)		

※¹ : 0.1～1

※² : 1.1～2

※³ : 2.1～3

※⁴ : 3.1～4

※⁵ : 4.1～5

※⁶ : 5.1～6

※⁷ : 6.1～7

イ 薬剤師数

常勤		非常勤	
		実人数	常勤換算
1人	181 (38.7%)	112 (23.9%)	74 (15.8%) ※ ¹
2人	126 (26.9%)	58 (12.4%)	17 (3.6%) ※ ²
3人	83 (17.7%)	24 (5.1%)	3 (0.6%) ※ ³
4人	44 (9.4%)	10 (2.1%)	2 (0.4%) ※ ⁴
5人	17 (3.6%)	4 (0.9%)	
6人	4 (0.9%)	4 (0.9%)	2 (0.4%) ※ ⁵
7人	6 (1.3%)	2 (0.4%)	
8人	2 (0.4%)	2 (0.4%)	
9人	1 (0.2%)	1 (0.2%)	
11人		1 (0.2%)	
12人	1 (0.2%)	1 (0.2%)	
14人		1 (0.2%)	
15人		1 (0.2%)	

※¹ : 0.1～1

※² : 1.1～2

※³ : 2.1～3

※⁴ : 3.1～4

※⁵ : 5.1～6

ウ 薬局内の薬剤師以外の職員数

常勤		非常勤		
		実人数	常勤換算	
1 人	81 (17.3%)	43 (9.2%)	25 (5.3%) ※ ¹	※ 1 : 0.1～1
2 人	153 (32.7%)	17 (3.6%)	6 (1.3%) ※ ²	※ 2 : 1.1～2
3 人	115 (24.6%)	10 (2.1%)	10 (2.1%) ※ ³	※ 3 : 2.1～3
4 人	44 (9.4%)	5 (1.1%)	4 (0.9%) ※ ⁴	※ 4 : 3.1～4
5 人	16 (3.4%)	1 (0.2%)		※ 5 : 5.1～6
6 人	10 (2.1%)			
7 人	2 (0.4%)			
9 人	3 (0.6%)			
11 人	1 (0.2%)			

エ 県内出身及び県外出身薬剤師数

人数	県内出身		県外出身	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
1人	190 (40.6%)	111 (23.7%)	154 (32.9%)	59 (12.6%)
2人	100 (21.4%)	44 (9.4%)	38 (8.1%)	21 (4.4%)
3人	54 (11.5%)	14 (2.9%)	21 (4.4%)	12 (2.5%)
4人	23 (4.9%)	4 (0.9%)	9 (1.9%)	3 (0.6%)
5人	8 (1.7%)	4 (0.9%)	2 (0.4%)	1 (0.2%)
6人	4 (0.9%)	1 (0.2%)		1 (0.2%)
7人	1 (0.2%)	2 (0.4%)		
8人		1 (0.2%)		
9人		1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)
12人				1 (0.2%)

③ 各種業務の実施・検討状況

「現状、実施できていない業務」について、全ての項目において、「薬剤師が確保できれば実施したい」と回答された薬局が多かった。

ア 24時間対応

実施済み	216 (46.3%)
実施予定あり	20 (4.3%)
薬剤師が確保できれば実施したい	33 (7.1%)
実施予定なし	198 (42.4%)

イ 在宅対応

実施済み	261 (55.9%)
実施予定あり	30 (6.4%)
薬剤師が確保できれば実施したい	94 (20.1%)
実施予定なし	82 (17.6%)

ウ 健康サポート業務（要指導医薬品等の供給機能や助言、健康相談受付、受診勧奨・関係機関紹介、等）

実施済み	154 (33.0%)
実施予定あり	56 (12.0%)
薬剤師が確保できれば実施したい	134 (28.7%)
実施予定なし	123 (26.3%)

エ 高度薬学管理業務（専門機関と連携した抗がん剤の副作用対応や抗HIV薬の選択を支援すること、等）

実施済み	24 (5.1%)
実施予定あり	25 (5.4%)
薬剤師が確保できれば実施したい	116 (24.8%)
実施予定なし	302 (64.7%)

オ 地域での多職種連携

実施済み	197 (42.2%)
実施予定あり	49 (10.5%)
薬剤師が確保できれば実施したい	132 (28.3%)
実施予定なし	89 (19.1%)

カ 要指導医薬品の取扱

実施済み	358 (76.7%)
実施予定あり	34 (7.3%)
薬剤師が確保できれば実施したい	30 (6.4%)
実施予定なし	45 (9.6%)

キ 一般用医薬品の取扱

実施済み	421 (90.1%)
実施予定あり	11 (2.4%)
薬剤師が確保できれば実施したい	16 (3.4%)
実施予定なし	19 (4.1%)

ク オンライン服薬指導対応

実施済み	231 (49.5%)
実施予定あり	95 (20.3%)
薬剤師が確保できれば実施したい	66 (14.1%)
実施予定なし	75 (16.1%)

ケ その他、薬剤師が確保できれば実施したい業務（自由記載）

- ・有給をすべて使い切る。

④ 薬剤師の充足状況

現在の定員を前提とした場合、約4割（39.4%）の薬局が「不足している」と回答された。また、業務の拡大や現在未実施の業務を今後実施することを前提とした場合には、6割超（66.4%）の薬局が「不足している」と回答された。

ア 現在の定員を前提とした場合の充足状況

足りている	283	60.6%
やや足りない	153	32.8%
全く足りない	31	6.6%

イ 需要があり業務を拡大したい場合や現在薬剤師の人材不足のため実施できていない業務を今後、実施することを前提とした場合の充足状況

足りている	157	33.6%
やや足りない	230	49.3%
全く足りない	80	17.1%

⑤ 需要があり業務を拡大したい場合や現在薬剤師の人材不足のため実施できていない業務を今後、実施することを前提とした場合に必要と考える薬剤師の総数

2人が最も多く（27.6%）、次いで1人（22.4%）、3人（21.1%）、4人（11.9%）の順であった。

常勤		非常勤	
1人	105 (22.4%)	1人	134 (28.6%)
2人	129 (27.6%)	2人	33 (7.0%)
3人	99 (21.1%)	3人	10 (2.1%)
4人	56 (11.9%)	4人	5 (1.0%)
5人	22 (4.7%)	5人	
6人	15 (3.2%)	6人	
7人	4 (0.9%)	7人	2 (0.4%)
8人	2 (0.4%)		
9人	2 (0.4%)		
10人	3 (0.6%)		
14人	1 (0.2%)		

⑥ 薬局の経営層との間で、薬剤師の充足状況の認識が共有されているか？

また、薬剤師確保の方針（確保する目標薬剤師数や確保時期など）は一致しているか？

共有し 薬剤師確保の方針も一致している	324 (69.4%)
共有しているが 薬剤師確保の方針は一致していない	98 (21.0%)
共有していない	45 (9.6%)

【薬局の業務状況】

① 令和5年1月から12月における総取扱処方箋数

「10,001～15,000枚」が最も多く（25.1%）、次いで、「5,001～10,000枚」（20.3%）、
「5,000枚以下」（18.6%）、「15,001～20,000枚」（16.3%）の順であった。

0～5,000 枚	87	18.6%
5,001～10,000 枚	95	20.3%
10,001～15,000 枚	117	25.1%
15,001～20,000 枚	76	16.3%
20,001～25,000 枚	37	7.9%
25,001～30,000 枚	26	5.6%
30,001～35,000 枚	14	3.0%
35,001～40,000 枚	8	1.7%
40,001～45,000 枚	1	0.2%
45,001～50,000 枚	0	0.0%
50,001～55,000 枚	2	0.4%
55,001～60,000 枚	1	0.2%
60,001 枚～※	3	0.6%

※72,785枚、113,741枚、120,000枚

② 令和6年10月における在宅訪問業務の実施回数（延べ回数）

約半数（48.8%）の薬局が在宅訪問業務を実施したと回答された。

0 回	239 (51.2%)
1～10 回	150 (32.1%)
11～20 回	35 (7.5%)
21～30 回	13 (2.8%)
31～40 回	5 (1.1%)
41～50 回	7 (1.5%)
51～60 回	1 (0.2%)
61～70 回	4 (0.9%)
71～80 回	3 (0.6%)
100～200 回	5 (1.1%)
200 回以上※	5 (1.1%)

※274回、450回、823回、1,000回、4,795回

【薬剤師の勤務状況】

① 令和6年10月1か月間に勤務した全ての薬剤師の勤務状況（令和6年10月31日時点）

勤務形態は、常勤が7割超（76.5%）で、非常勤が2割超（23.5%）であった。

性別では、男女ほぼ半数であった。

年齢階級は、常勤の男性は30代が最も多く、常勤の女性は20代から60代まで幅広く勤務している。

ア 勤務形態

常勤	955（76.5%）
非常勤	294（23.5%）
合計	1,249

イ 性別

男性	599（47.9%）
女性	623（49.8%）
回答しない	27（2.2%）
合計	1,249

ウ 年齢階級

常勤				
年齢階級	男性	女性	回答しない	合計
20代	83（6.6%）	73（5.8%）	1（0.1%）	157（12.6%）
30代	147（11.7%）	89（7.1%）	9（0.7%）	245（19.6%）
40代	106（8.4%）	85（6.8%）	4（0.3%）	195（15.6%）
50代	55（4.4%）	94（7.5%）	4（0.3%）	153（12.2%）
60代	66（5.2%）	80（6.4%）	3（0.2%）	149（11.9%）
70代以上	32（2.5%）	24（1.9%）		56（4.4%）
合計	489（51.2%）	445（46.6%）	21（2.2%）	955

非常勤				
年齢階級	男性	女性	回答しない	合計
20代	17（1.3%）	10（0.8%）	1（0.1%）	28（2.2%）
30代	24（1.9%）	29（2.3%）		53（4.2%）
40代	17（1.3%）	35（2.8%）	3（0.2%）	55（4.4%）
50代	11（0.8%）	27（2.1%）	1（0.1%）	39（3.1%）
60代	27（2.1%）	42（3.3%）	1（0.1%）	70（5.6%）
70代以上	14（1.1%）	35（2.8%）		49（3.9%）
合計	110（37.4%）	178（60.5%）	6（2.0%）	294

【薬剤師の採用状況等】

① 薬剤師募集状況及び採用状況

約3割の薬局が募集しているが、応募があった薬局は1～2割であり、内定・採用数はさらに少ない状況であった。

ア 募集人数

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
0 人	331 (70.8%)	329 (70.4%)	325 (69.5%)	318 (68.0%)	315 (67.4%)	302 (64.6%)	317 (67.8%)
1 人	108 (23.1%)	108 (23.1%)	111 (23.7%)	117 (25.0%)	121 (25.9%)	133 (28.4%)	123 (26.3%)
2 人	23 (4.9%)	25 (5.4%)	26 (5.5%)	26 (5.5%)	23 (4.9%)	24 (5.1%)	20 (4.2%)
3 人	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	2 (0.4%)	4 (0.9%)	4 (0.9%)	3 (0.6%)
4 人	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)
10 人以上	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)

イ 応募人数

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
0 人	409 (87.5%)	407 (87.1%)	396 (84.7%)	385 (82.4%)	376 (80.5%)	375 (80.2%)	428 (91.6%)
1 人	48 (10.2%)	43 (9.2%)	52 (11.1%)	69 (14.7%)	73 (15.6%)	69 (14.7%)	31 (6.6%)
2 人	7 (1.4%)	14 (2.9%)	16 (3.4%)	8 (1.7%)	9 (1.9%)	14 (2.9%)	3 (0.6%)
3 人				2 (0.4%)	5 (1.1%)	6 (1.3%)	2 (0.4%)
5 人					1 (0.2%)		
10 人以上	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)

ウ 採用内定人数

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
0 人	419 (89.7%)	417 (89.2%)	404 (86.5%)	395 (84.5%)	391 (83.7%)	394 (84.3%)	430 (92.0%)
1 人	40 (8.5%)	36 (7.7%)	49 (10.4%)	60 (12.8%)	66 (14.1%)	57 (12.2%)	26 (5.5%)

2 人	4 (0.9%)	10 (2.1%)	9 (1.9%)	6 (1.3%)	3 (0.6%)	9 (1.9%)	5 (1.1%)
3 人			3 (0.6%)	2 (0.4%)	2 (0.4%)	2 (0.4%)	1 (0.2%)
4 人	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	2 (0.4%)	2 (0.4%)
5 人					1 (0.2%)		
10 人以上	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)

エ 採用人数

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
0 人	411 (88.0%)	413 (88.4%)	390 (83.5%)	385 (82.4%)	372 (79.6%)	379 (81.1%)
1 人	44 (9.4%)	35 (7.4%)	60 (12.8%)	61 (13.0%)	80 (17.1%)	66 (14.1%)
2 人	5 (1.1%)	11 (2.4%)	9 (1.9%)	12 (2.5%)	6 (1.3%)	11 (2.4%)
3 人		1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	3 (0.6%)
4 人	2 (0.4%)	2 (0.4%)	2 (0.4%)	3 (0.6%)	2 (0.4%)	2 (0.4%)
5 人					1 (0.2%)	1 (0.2%)
10 人以上	3 (0.6%)	3 (0.6%)	3 (0.6%)	3 (0.6%)	3 (0.6%)	3 (0.6%)

オ 採用者のうち新卒者人数

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
0 人	436 (93.3%)	435 (93.1%)	427 (91.4%)	418 (89.5%)	430 (92.0%)	439 (94.0%)
1 人	24 (5.1%)	20 (4.2%)	28 (5.9%)	41 (8.7%)	29 (6.2%)	21 (4.4%)
2 人	2 (0.4%)	7 (1.4%)	7 (1.4%)	3 (0.6%)	3 (0.6%)	2 (0.4%)
10 人以上	3 (0.6%)	3 (0.6%)	3 (0.6%)	3 (0.6%)	3 (0.6%)	3 (0.6%)

＜薬剤師の採用に関する設問で回答が難しい理由＞

※（ ）内の数字は、同様の回答数。

- ・会社で一括募集・採用を行っているため（11）
- ・募集しておらず採用実績もない（4）
- ・各年度本部より店舗ごとの人員状況を確認し必要に応じて人員配置を行なっている
- ・令和4年以前は前経営者のため正確な数字は不明です
- ・会社より非公開指示あり

② 薬剤師の給与状況

月額基本給は、25歳（新卒採用）では、「21万～25万円」（25.6%）が最も多く、次いで、「26万～30万円」（19.0%）であった。35歳では「26万～30万円」（25.2%）、45歳・55歳・60歳では「46万～50万円」が最も多かった。

また、新卒者の年収は、「401～450万円」最も多かった（39.6%）。

ア 薬剤師の給与（基本給／月額）… 賞与・諸手当等は含めない。

	新卒採用 25 歳	35 歳	45 歳	55 歳	60 歳
10 万～15 万円	5 (1.1%)	3 (0.6%)	3 (0.6%)	3 (0.6%)	5 (1.1%)
16 万～20 万円	37 (7.9%)	8 (1.7%)	6 (1.3%)	6 (1.3%)	8 (1.7%)
21 万～25 万円	120 (25.6%)	31 (6.6%)	9 (1.9%)	8 (1.7%)	6 (1.3%)
26 万～30 万円	89 (19.0%)	118 (25.2%)	42 (8.9%)	29 (6.2%)	42 (8.9%)
31 万～35 万円	42 (8.9%)	56 (11.9%)	76 (16.2%)	53 (11.3%)	39 (8.3%)
36 万～40 万円	76 (16.2%)	56 (11.9%)	67 (14.3%)	60 (12.8%)	56 (11.9%)
41 万～45 万円	5 (1.1%)	78 (16.7%)	49 (10.4%)	50 (10.7%)	39 (8.3%)
46 万～50 万円	8 (1.7%)	16 (3.4%)	94 (20.1%)	63 (13.4%)	111 (23.7%)
51 万～55 万円		2 (0.4%)	9 (1.9%)	36 (7.7%)	18 (3.8%)
56 万～60 万円		2 (0.4%)	2 (0.4%)	49 (10.4%)	23 (4.9%)
61 万～65 万円				2 (0.4%)	4 (0.9%)
66 万～70 万円		1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	3 (0.6%)

71 万～75 万円					2 (0.4%)
76 万～80 万円			1 (0.2%)		
80 万～90 万円				1 (0.2%)	1 (0.2%)

イ 新卒の初任給（年収）

300 万円以下	50 (10.7%)
301～350 万円	57 (12.2%)
351～400 万円	74 (15.8%)
401～450 万円	185 (39.6%)
451～500 万円	65 (13.9%)
501～550 万円	18 (3.9%)
551～600 万円	12 (2.6%)
601 万円以上	4 (0.9%)

③ 修学資金支援制度又は奨学金返還支援制度について

独自の支援制度を設けている薬局は約 2 割（19.3%）であった。

これまで修学資金支援制度を利用した入職者は46人であり、現在貸与中の学生は20人であった。

また、これまで奨学金返還支援制度を利用した入職者は50人であった。

ア 薬剤師を採用するにあたり、薬局独自の修学資金支援制度又は奨学金返還支援制度はあるか？

修学資金支援制度及び奨学金返還支援制度のいずれもある	24 (5.1%)
修学資金支援制度のみある	12 (2.6%)
奨学金返還支援制度のみある	54 (11.6%)
いずれの制度もない	375 (80.3%)

イ これまでに修学資金支援制度を利用した入職者数は全部で何人か？

1 人	9 施設
2 人	2 施設
3 人	3 施設
7 人	2 施設
10 人	1 施設

ウ 修学資金支援制度について、貸与中の学生は何人か？

1 人	4 施設
2 人	3 施設
10 人	1 施設

エ これまでに奨学金返還支援制度を利用した入職者は全部で何人か？

1 人	17 施設
3 人	1 施設
10 人	3 施設

④ 令和6年度に、薬学生の実務実習受入をしたか？

県内大学及び県外大学の学生を受け入れて実習を実施	61 (13.1%)
県内大学の学生を受け入れて実習を実施	19 (4.1%)
県外大学の学生を受け入れて実習を実施	1 (0.2%)
実習の受入実績はない	384 (82.2%)

⑤ 薬剤師確保のための取組事項等について

ア 薬剤師を確保するために取り組んでいること。（自由記載）

※（ ）内の数字は、同様の回答数。

- ・人材派遣会社の利用（19）
- ・就職説明会への参加（18）
- ・ハローワークへの登録（15）
- ・求人サイトへの登録（9）
- ・大学訪問（8）
- ・求人広告（5）
- ・企業独自の就活支援イベントの開催（3）
- ・岩手県薬剤師会雑誌の求人欄への掲載（3）
- ・社内紹介制度（3）
- ・奨学金制度と奨学金返済支援制度の実施（2）
- ・インターンシップ（2）
- ・薬剤師間の情報交換（2）
- ・働く環境の改善（2）
- ・ブログ等SNS更新
- ・自社ホームページ作成
- ・各種資格取得支援
- ・社内教育の充実
- ・住宅支援
- ・給与話し合い
- ・保育園との提携
- ・入社祝金
- ・学生との交流
- ・大学・薬剤師会との情報共有
- ・大学と協業した中高生に対するアウトリーチ活動
- ・出身大学との連携
- ・高校生薬剤師体験の実施
- ・実務実習生の受入

- ・早期体験実習への協力
- ・薬学生アルバイト募集・受入
- ・地域のお薬局との関わりを持つこと

イ 薬剤師の採用にあたり、困っていること。（自由記載）

※（ ）内の数字は、同様の回答数。

- ・応募がない（15）
- ・希望する給与水準が高い（7）
- ・応募が少ない（5）
- ・紹介業者の手数料が高額であること（5）
- ・地方勤務を希望する薬剤師が少ない（4）
- ・採用しても長続きしない（4）
- ・若い人が集まらない（3）
- ・求人活動が（マンパワー、費用面で）できない（3）
- ・地元出身の人が少ない（3）
- ・学力（を含めた質）の低下（2）
- ・応募があっても採用に至らない（2）
- ・個人店舗を希望する人がいない（2）
- ・就職先に求める条件の把握が難しい（2）
- ・薬学生との接触を図るためのチャネル、機会が少ない（2）
- ・卒業延期や国家試験不合格により計画的に採用できない（2）
- ・中途採用が難しい（2）
- ・16時以降も働ける人が少ない
- ・50～60代からの応募しかこない
- ・岩手県内での就職を希望する薬剤師とのマッチング
- ・薬学生の業界研究や企業研究が足りないと感じている
- ・学生の早期内定
- ・転職サイト（紹介業者）に頼りすぎている傾向がある
- ・求人サイトへの登録に係る費用の増加
- ・求職情報が少ない
- ・人間関係が不安
- ・住居の確保
- ・医薬品流通不安
- ・個人能力の格差
- ・地域における人材不足
- ・残業時間が多い
- ・採用後の研修カリキュラムが充実していない
- ・盛岡や八戸から新幹線通勤となるので経費もかかる
- ・土曜日の休日希望や時短希望者も多く、働き方とプライベートと薬局運営のバランスを取ることが難しい
- ・新卒者の条件が細かい
- ・慢性的な人手不足

- ・地元出身者以外の採用は難しい

ウ 薬剤師が不足する病院・薬局を支援するための方策。（自由記載）

※（ ）内の数字は、同様の回答数。

- ・収入アップ（地方勤務に対する評価を含む）（９）
- ・薬剤師の派遣（５）
- ・県内企業に限定した就職説明会の開催（４）
- ・薬学生奨学金制度創設（一定期間就労することにより返済不要とする）（３）
- ・薬剤師の賃金や労働条件の改善のための補助金等による資金援助（３）
- ・ダブルワーク（３）
- ・小中高生向けの薬剤師体験イベントの開催（２）
- ・金銭的援助と薬剤師がやりがいを持てるようにする支援（２）
- ・地域枠選抜による薬学部受験（２）
- ・医療ＤＸに対応するための体制整備に係る補助金等による支援（２）
- ・管理薬剤師の兼務範囲の拡大（２）
- ・求職者と求人者の仲介（２）
- ・大学での就職斡旋（２）
- ・高齢過疎の最前線であり、大都市圏とは明確に違う点をしっかりと洗い出してアピールすること
- ・最新の調剤機器を積極的に導入し、大都市圏よりも先進であることをアピールする
- ・最新の調剤機器を活用できる人材の育成
- ・高齢過疎地区特有の課題に取り組み、対応していることをアピールする
- ・薬剤師が地域に根差し、薬剤師間の連携や多職種との連携も含め、住民のために活動してる様子が学生等に伝わる街づくり
- ・高校や大学で、奨学金とその後の社会生活に関する教育を行うこと
- ・医療資源の少ない地域に特化した調剤報酬による評価
- ・医療資源の少ない地域への支援金
- ・地域枠選抜による薬学部受験
- ・岩手県自体がもっと活気がないと県外から来ない
- ・岩手の魅力を最大限発信する
- ・帰ってきたくなる街づくり
- ・地方は、都市部に比べ他職種との距離が近く、連携が進んでいることアピールする
- ・県から岩手に就職した薬剤師に、県から支援金を贈る
- ・中小の企業・薬局を対象とした岩手県による他県からの薬剤師就業支援制度
- ・奨学金返還助成制度創設
- ・調剤機器導入に係る費用補助
- ・岩手県主体の派遣薬剤師登録制度
- ・岩手県による県内就職希望者の取りまとめ
- ・国に薬剤師数を増やすことを呼びかける
- ・「薬剤師が不足している」ことの情報発信や共有
- ・修学支援制度や就労支援制度の創設
- ・診療報酬・調剤報酬引き上げ

- ・薬価の引き上げ
- ・病院薬剤師の賃金アップ
- ・岩手県や岩手県薬剤師会主催の薬学生向け合同説明会の開催
- ・家賃補助
- ・薬学生を対象とした「へき地インターンシップ」
- ・薬剤師会などによる斡旋
- ・休日や時間外の副業・アルバイトを容認する
- ・求人サイトの利用
- ・退職した薬剤師の雇用
- ・夏季冬季休暇の充実
- ・業務委託
- ・業務効率化のための調剤機器の導入
- ・企業の壁を越えた人材交流
- ・周辺地域内での薬剤師の貸し借り制度
- ・福利厚生の実施
- ・県外大学薬学部との連携や実務実習受入
- ・小中高生の保護者向け説明会の開催
- ・薬剤師会の活動に積極的に参加する
- ・学生の質の向上
- ・新卒者の増加

エ 募集しても集まらない原因。（自由記載）

※（ ）内の数字は、同様の回答数。

- ・賃金が低い（23）
- ・地方での勤務を希望する人が少ない（17）
- ・生活のための利便性が低いこと（8）
- ・大手ドラッグストアや大手薬局チェーンを希望する人が多い（7）
- ・休みが少ない（取りづらい）（7）
- ・小規模企業であること（6）
- ・過疎地域（5）
- ・労働時間が長い（5）
- ・アピール不足（4）
- ・忙しすぎる（4）
- ・地域に人を呼び込むだけの魅力がない（3）
- ・県内で従事している薬剤師数が少ない（3）
- ・給与・やりがいのバランスが悪い（2）
- ・都市部の大学入学者は、卒業しても地元に戻ってこない（2）
- ・就業を希望する薬剤師を把握できていない（接点を持っていない）
- ・一人薬剤師の店舗での勤務はハードルが高い
- ・世の中の働き方改革と薬局の業務は逆行している（常時開局を求められている）
- ・経営者が薬剤師ではないため職業理念が違う
- ・修学資金支援制度等を実施していない

- ・女性薬剤師が結婚や就職等で都市部に流出しないような環境が整備されていない
- ・少子化・人口減少により都市部との両極化
- ・地方の魅力発信やまちづくりの取組不足
- ・薬学生のアプローチが不十分
- ・紹介業者の手数料が高い
- ・大学が少ない
- ・地方の薬系大学の薬剤師輩出の少なさ
- ・地元出身者が少ない
- ・保険薬局の業態としての将来の不安
- ・薬剤師の病院志向

2 アンケート調査の実施結果

(2) 県内病院

岩手県内に所在する医療機関（89施設。令和6年10月1日時点。）にアンケート用紙を送付し、薬剤部門の長又は薬剤部門の長から委任された方に回答を依頼し、Webフォームで回答いただいた。

<回答数 71施設（回答率：79.8%）>

【病院が所在する2次保健医療圏】

盛岡	31 (43.7%)
岩手中部	9 (12.7%)
胆江	8 (11.3%)
両磐	7 (9.9%)
気仙	2 (2.8%)
釜石	5 (7.0%)
宮古	3 (4.2%)
久慈	3 (4.2%)
二戸	3 (4.2%)

【病院の基本情報】

① 救急医療体制

初期（初期救急医療体制）	12 (16.9%)
二次（入院を要する救急医療体制）	30 (42.3%)
三次（救命救急センター）	4 (5.6%)
体制なし	25 (35.2%)

② 承認等の状況（複数選択可）

特定機能病院	2 (2.8%)
地域医療支援病院	10 (14.1%)
臨床研究中核病院	2 (2.8%)
いずれにも該当しない	58 (81.7%)

③ 許可病床数

ア 一般病床

0床	12 (16.9%)
1床～49床	10 (14.1%)
50床～99床	22 (31.0%)
100床～149床	12 (16.9%)
150床～199床	2 (2.8%)
200床～249床	2 (2.8%)

250 床～299 床	2 (2.8%)
300 床～349 床	3 (4.2%)
350 床～399 床	3 (4.2%)
400 床以上	3 (4.2%)

※414床、685床、932床

イ 療養病床

0 床	51 (71.8%)
1 床～49 床	5 (7.0%)
50 床～74 床	3 (4.2%)
75 床～99 床	3 (4.2%)
100 床～124 床	6 (8.5%)
125 床～149 床	0 (0.0%)
150 床以上	3 (4.2%)

※150床、164床

ウ 精神病床

0 床	55 (77.5%)
1 床～99 床	2 (2.8%)
100 床～149 床	4 (5.6%)
150 床～199 床	3 (4.2%)
200 床～249 床	2 (2.8%)
250 床～299 床	4 (5.6%)
300 床以上	1 (1.4%)

※359床

エ 感染症病床

0 床	63 (88.7%)
1 床～2 床	1 (1.4%)
3 床～4 床	6 (8.5%)
5 床以上※	1 (1.4%)

※8床

オ 結核病床

0 床	64 (90.1%)
1 床～9 床	3 (4.2%)
10 床～19 床	3 (4.2%)
20 床以上※	1 (1.4%)

※20床

カ 全体

1 床～49 床	5 (7.0%)
50 床～99 床	21 (29.6%)
100 床～149 床	8 (11.3%)
150 床～199 床	13 (18.3%)
200 床～249 床	6 (8.5%)
250 床～299 床	7 (9.9%)
300 床～349 床	4 (5.6%)
350 床～399 床	3 (4.2%)
400 床～449 床	1 (1.4%)
450 床～499 床	1 (1.4%)
500 床以上※	2 (2.8%)

※685床、1000床

④ 全病棟数（看護単位）

1 病棟	20 (28.2%)
2 病棟	14 (19.7%)
3 病棟	11 (15.5%)
4 病棟	9 (12.7%)
5 病棟	6 (8.5%)
6 病棟	4 (5.6%)
8 病棟	2 (2.8%)
9 病棟	1 (1.4%)
15 病棟	1 (1.4%)
20 病棟以上※	3 (4.2%)

※27病棟、48病棟、150病棟

⑤ 2024年10月末時点で届け出ている又は2024年10月の1か月間に、算定している診療報酬項目

薬剤管理指導料と回答した病院が多く（1：60.6%、2：52.1%）、次いで、退院時薬剤情報管理指導料（47.9%）、病棟薬剤業務実施加算1（33.8%）であった。

病棟薬剤業務実施加算1	24 (33.8%)
病棟薬剤業務実施加算2	5 (7.0%)
薬剤管理指導料1	43 (60.6%)
薬剤管理指導料2	37 (52.1%)
退院時薬剤情報管理指導料	34 (47.9%)
退院時薬剤情報管理指導料・退院時薬剤情報管理指導連携加算	16 (22.5%)
小児入院医療管理料・退院時薬剤情報管理指導連携加算	4 (5.6%)
外来化学療法加算1	16 (22.5%)
外来化学療法加算2	5 (7.0%)

外来腫瘍化学療法診療料 1	16 (22.5%)
外来腫瘍化学療法診療料 2	3 (4.2%)
外来腫瘍化学療法診療料 3	1 (1.4%)
外来腫瘍化学療法診療料・連携充実加算	9 (12.7%)
がん薬物療法体制充実加算	6 (8.5%)
周術期薬剤管理加算	3 (4.2%)
術後疼痛管理チーム加算	6 (8.5%)
がん患者指導管理料ハ	10 (14.1%)
薬剤総合評価調整加算	17 (23.9%)
抗菌薬適正使用体制加算	10 (14.1%)
薬剤業務向上加算	0 (0.0%)
上記のうち該当するものはない	18 (25.4%)

⑥ 現在実施している業務でさらなる拡大が必要な業務、または現在実施していないが新たに立ち上げが必要と考えている業務

病棟薬剤業務実施加算 1 が最も多く (23.9%)、次いで、薬剤総合評価調整加算 (21.1%)、薬剤管理指導料 (1 : 19.7%、2 : 18.3%)、退院時薬剤情報管理指導料 (18.3%) 及び退院時薬剤情報管理指導料連携加算 (19.7%) であった。

病棟薬剤業務実施加算 1	17 (23.9%)
病棟薬剤業務実施加算 2	9 (12.7%)
薬剤管理指導料 1	14 (19.7%)
薬剤管理指導料 2	13 (18.3%)
退院時薬剤情報管理指導料	13 (18.3%)
退院時薬剤情報管理指導料・退院時薬剤情報管理指導連携加算	14 (19.7%)
小児入院医療管理料・退院時薬剤情報管理指導連携加算	2 (2.8%)
外来化学療法加算 1	2 (2.8%)
外来化学療法加算 2	1 (1.4%)
外来腫瘍化学療法診療料 1	2 (2.8%)
外来腫瘍化学療法診療料 2	1 (1.4%)
外来腫瘍化学療法診療料 3	0 (0.0%)
外来腫瘍化学療法診療料・連携充実加算	4 (5.6%)
がん薬物療法体制充実加算	6 (8.5%)
周術期薬剤管理加算	6 (8.5%)
術後疼痛管理チーム加算	6 (8.5%)
がん患者指導管理料ハ	4 (5.6%)
薬剤総合評価調整加算	15 (21.1%)
抗菌薬適正使用体制加算	8 (11.3%)
薬剤業務向上加算	3 (4.2%)
上記のうち該当するものはない	35 (49.3%)

⑦ 前問⑥の選択肢以外に必要と考えている業務（自由記載）

- ・ 薬剤師外来
- ・ がん薬物療法体制充実加算

⑧ 下記診療報酬項目を算定していない理由

「マンパワーが足りない」が多かった項目は、「病棟薬剤業務実施加算」（１：38.0%、２：30.9%）、「薬剤管理指導料」（１・２ともに21.1%）、「退院時薬剤情報管理指導料」（26.7%）及び「同退院時薬剤情報管理指導連携加算」（33.8%）、「薬剤総合評価調整加算」（26.7%）、「抗菌薬適正使用体制加算」（21.1%）、「薬剤業務向上加算」（25.3%）であった。

また、「算定要件外」が多かった項目は、「病棟薬剤業務実施加算２」（36.6%）、「小児入院医療管理料・退院時薬剤情報管理指導連携加算」（59.1%）、「外来化学療法加算」（１：40.8%、２：49.2%）、「外来腫瘍化学療法診療料」（１：45.1%、２：53.5%、３：56.3%）及び「同連携充実加算」（46.4%）、「がん薬物療法体制充実加算」（46.4%）、「周術期薬剤管理加算」（50.7%）、「術後疼痛管理チーム加算」（49.2%）、「がん患者指導管理料ハ」（47.8%）、「抗菌薬適正使用体制加算」（23.9%）、「薬剤業務向上加算」（32.3%）であった。

診療報酬項目	マンパワー が足りない	病院経営層 の方針	運用方法がわ からない	業務拡大対 象ではない	算定要件外	その他
病棟薬剤業務実施加算 1	27 (38.0%)	2 (2.8%)		1 (1.4%)	9 (12.7%)	6 (8.5%)
病棟薬剤業務実施加算 2	22 (30.9%)	1 (1.4%)		4 (5.6%)	26 (36.6%)	4 (5.6%)
薬剤管理指導料 1	15 (21.1%)	1 (1.4%)		1 (1.4%)	6 (8.5%)	9 (12.7%)
薬剤管理指導料 2	15 (21.1%)	1 (1.4%)		1 (1.4%)	7 (9.8%)	8 (11.3%)
退院時薬剤情報管理指導料	19 (26.7%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)	3 (4.2%)	12 (16.9%)
退院時薬剤情報管理指導料・退院 時薬剤情報管理指導連携加算	24 (33.8%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)	2 (2.8%)	9 (12.7%)	12 (16.9%)
小児入院医療管理料・退院時 薬剤情報管理指導連携加算	4 (5.6%)	1 (1.4%)		7 (9.8%)	42 (59.1%)	5 (7.0%)
外来化学療法加算 1	3 (4.2%)	2 (2.8%)		7 (9.8%)	29 (40.8%)	6 (8.5%)
外来化学療法加算 2	2 (2.8%)	2 (2.8%)		8 (11.3%)	35 (49.2%)	7 (9.8%)
外来腫瘍化学療法診療料 1	3 (4.2%)	2 (2.8%)		7 (9.8%)	32 (45.1%)	5 (7.0%)

外来腫瘍化学療法診療料 2	1 (1.4%)	2 (2.8%)		8 (11.3%)	38 (53.5%)	6 (8.5%)
外来腫瘍化学療法診療料 3	2 (2.8%)	2 (2.8%)		8 (11.3%)	40 (56.3%)	5 (7.0%)
外来腫瘍化学療法診療料・ 連携充実加算	2 (2.8%)	2 (2.8%)		8 (11.3%)	33 (46.4%)	6 (8.5%)
がん薬物療法体制充実加算	7 (9.8%)	2 (2.8%)		8 (11.3%)	33 (46.4%)	5 (7.0%)
周術期薬剤管理加算	9 (12.7%)	3 (4.2%)		7 (9.8%)	36 (50.7%)	6 (8.5%)
術後疼痛管理チーム加算	9 (12.7%)	2 (2.8%)		7 (9.8%)	35 (49.2%)	6 (8.5%)
がん患者指導管理料ハ	6 (8.5%)	1 (1.4%)		8 (11.3%)	34 (47.8%)	5 (7.0%)
薬剤総合評価調整加算	19 (26.7%)	1 (1.4%)		5 (7.0%)	10 (14.0%)	13 (18.3%)
抗菌薬適正使用体制加算	15 (21.1%)	1 (1.4%)		7 (9.8%)	17 (23.9%)	14 (19.7%)
薬剤業務向上加算	18 (25.3%)	1 (1.4%)		8 (11.3%)	23 (32.3%)	10 (14.0%)

【薬剤師の確保状況等】

① 医療法に基づく薬剤師法定必要数（薬剤師標準数）

1 人が最も多く（32.4%）、次いで 2 人（31.0%）、3 人（16.9%）の順であった。

人数	件数	割合
1 人	23	32.4%
2 人	22	31.0%
3 人	12	16.9%
4 人	6	8.5%
5 人	2	2.8%
6 人	1	1.4%
7 人	1	1.4%
8 人	1	1.4%
10 人	1	1.4%
26 人	1	1.4%
45 人	1	1.4%

② 2024年10月末時点における薬剤師数

薬剤師の定員、薬剤師数ともに、常勤では2人が最も多く、非常勤では1人と回答された施設が多かった。

薬剤師以外の職員数は、常勤では1人が最も多く（33.8%）、次いで2人（15.4%）であった。

出身別では、県内出身者がほとんどであった。

ア 薬剤師の定員

常勤		非常勤	
		実人数	常勤換算
1人	9（12.7%）	6（8.5%）	1（1.4%）
2人	18（25.4%）	1（1.4%）	1（1.4%）
3人	15（21.1%）		
4人	7（9.9%）		
5人	4（5.6%）	1（1.4%）	
6人	2（2.8%）		
8人	2（2.8%）		
10人	3（4.2%）		
11人	3（4.2%）		
12人	1（1.4%）		
15人	1（1.4%）		
16人	2（2.8%）		
19人	1（1.4%）		
20人以上	1（1.4%）		
30人以上	1（1.4%）		
60人以上	1（1.4%）		

イ 薬剤師数（休職を除き、派遣薬剤師を含む）

常勤		非常勤	
		実人数	常勤換算
1人	15（21.1%）	10（14.0%）	5（7.0%）
2人	19（26.7%）	4（5.6%）	1（1.4%）
3人	10（14.0%）		
4人	5（7.0%）		
5人	5（7.0%）		
6人	2（2.8%）		
8人	2（2.8%）		
9人	3（4.2%）		
10人	2（2.8%）		
13人	1（1.4%）		
14人	1（1.4%）		

16 人	2 (2.8%)
19 人	1 (1.4%)
20 人以上	1 (1.4%)
30 人以上	1 (1.4%)
60 人以上	1 (1.4%)

ウ 薬剤部門内の薬剤師以外の職員数

常勤		非常勤	
		実人数	常勤換算
1 人	24 (33.8%)	2 (2.8%)	6 (8.4%)
2 人	11 (15.4%)	2 (2.8%)	1 (1.4%)
3 人	5 (7.0%)	2 (2.8%)	
4 人	3 (4.2%)	1 (1.4%)	
5 人	1 (1.4%)		
6 人	1 (1.4%)		
10 人	1 (1.4%)		
19 人	1 (1.4%)		

エ 県内出身及び県外出身薬剤師数

人数	県内出身		県外出身	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
1 人	2 (2.8%)	13 (18.3%)	6 (8.5%)	3 (4.2%)
2 人	17 (23.9%)	3 (4.2%)	4 (5.6%)	
3 人	17 (23.9%)		4 (5.6%)	
4 人	12 (16.9%)			
5 人	4 (5.6%)		1 (1.4%)	
6 人	3 (4.2%)			
7 人	2 (2.8%)			
8 人	1 (1.4%)			
9 人	3 (4.2%)			
10 人	1 (1.4%)			
12 人	1 (1.4%)			
13 人	1 (1.4%)			
14 人	1 (1.4%)			
15 人			1 (1.4%)	
16 人	1 (1.4%)			
19 人	1 (1.4%)			
30 人以上	1 (1.4%)			
60 人以上	1 (1.4%)			

③ 各種業務の実施・検討状況

「現状、実施できていない業務」について、「薬剤師が確保できれば実施したい」と回答された施設が多かった。

ア 24時間対応（当直（宿直）対応）

実施済み	12（16.9%）
実施予定なし	59（83.1%）

イ 24時間対応（オンコール対応）

実施済み	17（23.9%）
一部実施済み	3（4.2%）
実施予定あり	1（1.4%）
薬剤師が確保できれば実施したい	4（5.6%）
実施予定なし	46（64.8%）

ウ 病棟業務

実施済み	28（39.4%）
一部実施済み	10（14.1%）
実施予定あり	2（2.8%）
薬剤師が確保できれば実施したい	17（23.9%）
実施予定なし	14（19.7%）

エ チーム医療への参画

実施済み	36（50.7%）
一部実施済み	14（19.7%）
実施予定あり	1（1.4%）
薬剤師が確保できれば実施したい	8（11.3%）
実施予定なし	12（16.9%）

オ 地域での多職種連携（薬薬連携含む）

実施済み	15（21.1%）
一部実施済み	18（25.4%）
実施予定あり	0（0.0%）
薬剤師が確保できれば実施したい	18（25.4%）
実施予定なし	20（28.1%）

カ 外来化学療法

実施済み	17（23.9%）
一部実施済み	3（4.2%）
実施予定あり	0（0.0%）
薬剤師が確保できれば実施したい	4（5.6%）
実施予定なし	47（66.1%）

キ 薬剤師外来

実施済み	6 (8.5%)
一部実施済み	3 (4.2%)
実施予定あり	2 (2.8%)
薬剤師が確保できれば実施したい	13 (18.3%)
実施予定なし	47 (66.1%)

ク 治療薬物モニタリング (TDM)

実施済み	21 (29.6%)
一部実施済み	9 (12.7%)
実施予定あり	2 (2.8%)
薬剤師が確保できれば実施したい	5 (7.0%)
実施予定なし	34 (47.8%)

ケ 医薬品情報管理 (DI) 専門部署の設置

実施済み	26 (36.6%)
一部実施済み	8 (11.3%)
実施予定あり	1 (1.4%)
薬剤師が確保できれば実施したい	11 (15.4%)
実施予定なし	25 (35.2%)

コ 医療安全管理部門業務への参画

実施済み	41 (57.7%)
一部実施済み	13 (18.3%)
実施予定あり	1 (1.4%)
薬剤師が確保できれば実施したい	3 (4.2%)
実施予定なし	13 (18.3%)

サ タスク・シフト／シェアの実施

実施済み	22 (31.0%)
一部実施済み	21 (29.6%)
実施予定あり	5 (7.0%)
薬剤師が確保できれば実施したい	6 (8.5%)
実施予定なし	17 (23.9%)

シ その他、薬剤師が確保できれば実施したい業務 (自由記載)

※ () 内の数字は、同様の回答数。

- ・病棟薬剤業務 (3)
- ・周術期関連業務 (3)
- ・薬剤管理指導 (2)
- ・在宅薬剤管理指導業務 (2)
- ・がん以外の薬剤師外来

- ・妊婦のカウンセリング
- ・緩和ケア
- ・化学療法から終末期治療

④ 「チーム医療への参画」について

「実施済み」または「一部実施済み」と回答した場合のチーム医療の名称及び検討状況
「感染対策」(90.1%)、「抗菌薬適正使用」(59.1%)、「栄養サポート」(57.7%)、「緩和ケア」(25.4%)、褥瘡管理(25.4%)に参加している施設が多かった。

	参加している	参加したいが できていない	参加していない	チームが設置 されていない
感染対策	64 (90.1%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)
栄養サポート	41 (57.7%)	1 (1.4%)	5 (7.0%)	17 (23.9%)
糖尿病	14 (19.7%)	3 (4.2%)	8 (11.3%)	39 (54.9%)
緩和ケア	18 (25.4%)	3 (4.2%)	3 (4.2%)	39 (54.9%)
褥瘡管理	18 (25.4%)	3 (4.2%)	3 (4.2%)	39 (54.9%)
救急医療	6 (8.5%)	3 (4.2%)	9 (12.7%)	46 (64.7%)
抗菌薬適正使用	42 (59.1%)	1 (1.4%)	2 (2.8%)	19 (26.7%)
術後疼痛管理	6 (8.5%)	2 (2.8%)	8 (11.3%)	48 (67.6%)
その他※	3 (4.2%)	0 (0.0%)	3 (4.2%)	7 (9.8%)

※その他

- ・心リハ
- ・生体腎移植
- ・せん妄ケア
- ・褥瘡予防対策
- ・身体拘束
- ・医療安全

⑤ 薬剤師の充足状況

現在の定員を前提とした場合、6割超(63.4%)の病院が「不足している」と回答された。また、業務の拡大や現在未実施の業務を今後実施することを前提とした場合には、8割超(84.5%)の病院が「不足している」と回答された。

ア 現在の定員を前提とした場合の充足状況

足りている	26	36.6%
やや足りない	32	45.1%
全く足りない	13	18.3%

イ 需要があり業務を拡大したい場合や現在薬剤師の人材不足のため実施できていない業務を今後、実施することを前提とした場合の充足状況

足りている	11	15.5%
やや足りない	29	40.8%
全く足りない	31	43.7%

- ⑥ 需要があり業務を拡大したい場合や現在薬剤師の人材不足のため実施できていない業務を今後、実施することを前提とした場合に必要と考える薬剤師の総数

2人が最も多く（25.4%）、次いで、3人（22.5）であった。

常勤		非常勤	
0人	4（5.6%）	0人	
1人	4（5.6%）	1人	6（8.5%）
2人	18（25.4%）	2人	2（2.8%）
3人	16（22.5%）	3人	1（1.4%）
4人	3（4.2%）		
5人	4（5.6%）		
6人	5（7.0%）		
7人	1（1.4%）		
8人	3（4.2%）		
10人	1（1.4%）		
11人	1（1.4%）		
12人	4（5.6%）		
13人	1（1.4%）		
15人	1（1.4%）		
18人	1（1.4%）		
20人以上	2（2.8%）		
30人以上	1（1.4%）		
60人以上	1（1.4%）		

- ⑦ 病院の経営層との間で、薬剤師の充足状況の認識が共有されているか？

また、薬剤師確保の方針（確保する目標薬剤師数や確保時期など）は一致しているか？

共有し 薬剤師確保の方針も一致している	48（67.6%）
共有しているが 薬剤師確保の方針は一致していない	20（28.2%）
共有していない	3（4.2%）

【薬剤師の勤務状況】

- ① 令和6年10月1か月間に勤務した全ての薬剤師の勤務状況（令和6年10月31日時点）

勤務形態は常勤がほとんど（96.5%）であり、性別では、女性がやや多かった。

年齢階級は、常勤では男女ともに30代が最も多く、男性は次いで40代から50代、女性は20代の順で多かった。

ア 勤務形態

常勤	413（96.5%）
非常勤	15（3.5%）
合計	428

イ 性別

男性	181 (42.3%)
女性	225 (52.6%)
回答しない	22 (5.1%)
合計	428

ウ 年齢階級

常勤				
年齢階級	男性	女性	回答しない	合計
20代	23 (5.3%)	49 (11.4%)	4 (0.9%)	76 (17.7%)
30代	64 (14.9%)	86 (20.0%)	13 (0.3%)	163 (38.0%)
40代	33 (7.7%)	37 (8.6%)	2 (0.4%)	72 (16.8%)
50代	29 (6.7%)	37 (8.6%)	3 (0.7%)	69 (16.1%)
60代	22 (5.1%)	8 (1.8%)		30 (7.0%)
70代以上	3 (0.7%)			3 (0.7%)
合計	174 (42.1%)	217 (52.5%)	22 (5.3%)	413

非常勤				
年齢階級	男性	女性	回答しない	合計
40代	1 (0.2%)	1 (0.2%)		2 (0.4%)
60代	5 (1.1%)	4 (0.9%)		9 (2.1%)
70代以上	1 (0.2%)	3 (0.7%)		4 (0.9%)
合計	7 (46.7%)	8 (53.3%)		15

【薬剤師の採用状況等】

① 薬剤師の採用状況等

約4割超の病院が募集しているが、応募があった病院は2割程度であり、内定・採用数はさらに少ない状況であった。

ア 募集人数

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
0人	39 (54.9%)	38 (53.5%)	39 (54.9%)	40 (56.3%)	42 (59.1%)	37 (52.1%)	42 (59.1%)
1人	25 (35.2%)	23 (32.3%)	25 (35.2%)	26 (36.6%)	23 (32.3%)	28 (39.4%)	23 (32.3%)
2人	4 (5.6%)	7 (9.8%)	5 (7.0%)	2 (2.8%)	4 (5.6%)	4 (5.6%)	5 (7.0%)
3人	3 (4.2%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)	2 (2.8%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)

4 人		1 (1.4%)					
5 人						1 (1.4%)	
6 人				1 (1.4%)			
8 人			1 (1.4%)				
10 人以上		1 (1.4%)			1 (1.4%)		

イ 応募人数

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
0 人	59 (83.0%)	55 (77.4%)	54 (76.0%)	51 (71.8%)	56 (78.8%)	53 (74.6%)	63 (88.7%)
1 人	8 (11.3%)	9 (12.7%)	13 (18.3%)	16 (22.5%)	9 (12.7%)	14 (19.7%)	6 (8.5%)
2 人	2 (2.8%)	5 (7.0%)	1 (1.4%)	2 (2.8%)	5 (7.0%)	3 (4.2%)	2 (2.8%)
3 人			2 (2.8%)	1 (1.4%)			
5 人		1 (1.4%)					
7 人	1 (1.4%)					1 (1.4%)	
10 人以上	1 (1.4%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)		

ウ 採用内定人数

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
0 人	60 (84.5%)	56 (78.8%)	54 (76.0%)	53 (74.6%)	54 (76.0%)	57 (80.2%)	63 (88.7%)
1 人	7 (9.8%)	9 (12.7%)	13 (18.3%)	14 (19.7%)	12 (16.9%)	10 (14.0%)	6 (8.5%)
2 人	3 (4.2%)	4 (5.6%)	2 (2.8%)	2 (2.8%)	4 (5.6%)	3 (4.2%)	2 (2.8%)
3 人	1 (1.4%)		1 (1.4%)	1 (1.4%)			
4 人		1 (1.4%)		1 (1.4%)		1 (1.4%)	

7 人		1 (1.4%)				
8 人			1 (1.4%)			
10 人以上					1 (1.4%)	

エ 採用人数

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
0 人	58 (81.9%)	54 (76.0%)	53 (74.6%)	50 (70.4%)	52 (73.2%)	59 (83.0%)
1 人	10 (14.0%)	11 (15.4%)	16 (22.5%)	19 (26.7%)	16 (22.5%)	9 (12.7%)
2 人	2 (2.8%)	4 (5.6%)	1 (1.4%)		2 (2.8%)	2 (2.8%)
3 人	1 (1.4%)	1 (1.4%)		1 (1.4%)		
4 人				1 (1.4%)		1 (1.4%)
5 人		1 (1.4%)				
7 人			1 (1.4%)			
10 人以上					1 (1.4%)	

オ 採用者のうち新卒者人数

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
0 人	61 (85.9%)	60 (84.5%)	63 (88.7%)	63 (88.7%)	62 (87.3%)	66 (92.9%)
1 人	7 (9.8%)	6 (8.5%)	6 (8.5%)	7 (9.8%)	7 (9.8%)	4 (5.6%)
2 人	1 (1.4%)	3 (4.2%)			1 (1.4%)	
3 人	1 (1.4%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)			1 (1.4%)
4 人			1 (1.4%)	1 (1.4%)		
5 人		1 (1.4%)				

6 人	1 (1.4%)					
9 人					1 (1.4%)	

＜薬剤師の採用に関する設問で回答が難しい理由＞

※（ ）内の数字は、同様の回答数。

- ・岩手県医療局としての採用のため、病院個別の内訳を示すことができない。（9）
- ・募集及び応募は同組織内で、一括で行っているため、個別には行っていない。
- ・グループ事務所（北海道東北ブロック）による採用のため、当院へ配属となった人数しか把握できていない。
- ・岩手医科大学附属病院と採用者共通。

② 薬剤師の給与状況

月額基本給は、25歳（新卒採用）では「21万～25万円」（67.6%）、35歳では「26万～30万円」（39.4%）、45歳では「31万～35万円」（26.7%）が最も多かった。

55歳では、「31万～35万円」（26.7%）、「36万～40万円」（23.9%）、「46万～50万円」の順で多かった。

60歳では、「31万～35万円」（26.7%）、「46万～50万円」（22.5%）の順で多かった。

また、新卒者の年収は、「351～400万円」が最も多く（33.8%）、次いで、「401～450万円」（30.9%）、「301～350万円」（25.4%）順で多かった。

ア 薬剤師の給与（基本給／月額）… 賞与・諸手当等は含めない。

	新卒採用 25 歳	35 歳	45 歳	55 歳	60 歳
16 万～20 万円	10 (14.0%)				
21 万～25 万円	48 (67.6%)	15 (21.1%)	2 (2.8%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)
26 万～30 万円	6 (8.5%)	28 (39.4%)	16 (22.5%)	9 (12.7%)	9 (12.7%)
31 万～35 万円	2 (2.8%)	8 (11.3%)	19 (26.7%)	19 (26.7%)	19 (26.7%)
36 万～40 万円		11 (15.4%)	10 (14.0%)	17 (23.9%)	10 (14.0%)
41 万～45 万円		1 (1.4%)	14 (19.7%)	2 (2.8%)	6 (8.5%)
46 万～50 万円		1 (1.4%)	1 (1.4%)	16 (22.5%)	16 (22.5%)

51 万～55 万円			1 (1.4%)		1 (1.4%)
56 万～60 万円					
61 万～65 万円				1 (1.4%)	
66 万～70 万円					1 (1.4%)

イ 新卒の初任給（年収）

300 万円以下	4 (5.6%)
301～350 万円	18 (25.4%)
351～400 万円	24 (33.8%)
401～450 万円	22 (30.9%)
451～500 万円	1 (1.4%)
501～550 万円	2 (2.8%)

ウ 薬剤師手当（月額）

なし	41 (57.7%)
1 万以下	1 (1.4%)
1.1 万～1.5 万円	4 (5.6%)
1.6 万～2.0 万円	9 (12.7%)
2.1 万～2.5 万円	4 (5.6%)
2.6 万～3.0 万円	1 (1.4%)
3.1 万～3.5 万円	1 (1.4%)
3.6 万～4.0 万円	2 (2.8%)
4.1 万～4.5 万円	1 (1.4%)
4.6 万～5.0 万円	
5.1 万～5.5 万円	
6 万以上※	5 (7.0%)

※6 万円・7 万円・8 万円

エ 危険手当（月額）

なし	64 (90.1%)
1 万以下	1 (1.4%)

オ 初任給調整手当（月額）

なし	48 (67.6%)
1 万以下	3 (4.2%)
1.1 万～1.5 万円	1 (1.4%)
1.6 万～2.0 万円	14 (19.7%)
2.1 万～2.5 万円	1 (1.4%)

カ 調整額(その他)(月額)

なし	55 (77.4%)
1 万以下	3 (4.2%)
1.1 万～1.5 万円	
1.6 万～2.0 万円	3 (4.2%)
2.1 万～2.5 万円	1 (1.4%)
2.6 万～3.0 万円	2 (2.8%)
3.1 万～3.5 万円	
3.6 万～4.0 万円	1 (1.4%)
4.1 万～4.5 万円	1 (1.4%)

③ 修学資金支援制度又は奨学金返還支援制度について

独自の支援制度を設けている病院は、16.9%であった。

これまで修学資金支援制度を利用した入職者は4人であり、現在貸与中の学生は1人であった。

また、これまで奨学金返還支援制度を利用した入職者は4人であった。

ア 薬剤師を採用するにあたり、病院独自の修学資金支援制度又は奨学金返還支援制度はあるか？

修学資金支援制度及び奨学金返還支援制度のいずれもある	3 (4.2%)
修学資金支援制度のみある	5 (7.0%)
奨学金返還支援制度のみある	4 (5.6%)
いずれの制度もない	59 (83.1%)

イ いずれかの支援制度がある場合の「期間・金額・人数」(自由記載)

- ・教育機関が定めた修学期間内、月額10万円、若干名。
- ・月額6万円以内の貸付。
- ・大学に入学する月、または奨学金の貸与決定月から卒業する月までの期間、5万円／月、人数は定まったものなし。
- ・希望する時まで・600万円以内・規定なし。
- ・期間6年、年100万円、人数は毎年度予算作成のうえ、決定している。
- ・100万円／年。
- ・日本学生支援機構の奨学金を借りている職員の奨学金返還を本人に代わって法人が5年間に渡って機構に返還。
- ・月5万円、総額360万円。

ウ これまでに修学資金支援制度を利用した入職者数は全部で何人か？

2人 2施設

エ 修学資金支援制度について、貸与中の学生は何人か？

1人 1施設

オ これまでに奨学金返還支援を利用した入職者は全部で何人か？

2 人	2 施設
-----	------

④ 令和 6 年度に、薬学生の実務実習受入をしたか？

県内大学及び県外大学の学生を受け入れて実習を実施	13 (18.3%)
県内大学の学生を受け入れて実習を実施	1 (1.4%)
県外大学の学生を受け入れて実習を実施	0 (0.0%)
実習の受入実績はない	57 (80.3%)

⑤ 薬剤師確保のための取組事項等について

ア 薬剤師を確保するために取り組んでいること。（自由記載）

※（ ）内の数字は、同様の回答数。

- ・大学の就職説明会への参加（13）
- ・大学訪問、求人募集（7）
- ・ホームページの掲載内容の充実（専用サイト作成を含む）（5）
- ・ハローワークへの求人募集（4）
- ・紹介会社の活用（4）
- ・オープンホスピタルの活用等（3）
- ・実務実習受入（2）
- ・認定・資格取得支援（2）
- ・高校生向け職種説明会
- ・高校生向け職場体験
- ・病院経営部門との情報共有
- ・岩手県医療局の取組
- ・初任給調整手当を設けた
- ・大学関係者との連携
- ・就職説明会の開催
- ・病院見学の実施
- ・インターンシップ受入
- ・採用年齢の引き上げ
- ・採用時の年齢制限引き下げ（撤廃を含む）
- ・県立病院薬剤師業務紹介パンフレット整備
- ・職員住宅の確保
- ・勤務時間を柔軟に対応
- ・院内保育所に設置
- ・SNSを利用した広報活動
- ・出身大学でのOB・OGによる講義
- ・町広報誌への募集掲載

イ 薬剤師の採用にあたり、困っていること。（自由記載）

※（ ）内の数字は、同様の回答数。

- ・募集しても応募者が少ない（9）
- ・募集しても応募がない（7）
- ・病院薬剤師を希望する学生が少ない（6）
- ・薬学生及び卒業生の減少（4）
- ・学費が膨大にかかるため、初就職先は給与の高い保険薬局を希望する学生が多い（3）
- ・内定者の国家試験不合格（3）
- ・採用人数が少ない
- ・定着率が悪い
- ・民間との格差
- ・薬剤師の待遇を良くしたいが、病院の経営を維持していくことで精いっぱい
- ・高額な給与水準になっている
- ・奨学金返済しながら病院の給与で一人暮らしは無理がある
- ・経験者の採用は、既存の経験年数の少ない者との関係性に苦慮する
- ・大手薬局チェーンやドラッグストア等との給与レベルに差がある
- ・紹介会社に登録しても紹介がほとんどない
- ・アパートを借りてまで勤務しようと思っていない
- ・仙台、盛岡等の都市圏への就職を希望する
- ・マンパワー不足で、求人サイトに掲載等したいが追い付かない

ウ 薬剤師が不足する病院・薬局を支援するための方策。（自由記載）

※（ ）内の数字は、同様の回答数。

- ・賃金アップ（基本給のベースアップ、各種手当の充実、等）（6）
- ・奨学金返還支援制度の創設（6）
- ・奨学金制度の創設（4）
- ・施設間を超えた薬剤師派遣（4）
- ・病院薬剤師と他の薬剤師との給与格差をなくす
- ・医療職上位俸給表への移行による給与待遇の改善
- ・県による薬剤師確保支援
- ・県や地域を挙げて応援体制や制度の標準化を図ること
- ・行政による地域偏在の解消
- ・病院薬剤師への応募が少ないことについて、行政も理解を深めること
- ・病院に勤務する薬剤師への特別手当等の国政支援
- ・病院薬剤師の診療報酬
- ・薬剤師が不足する病院・薬局への雇用・研修体制充実のための資金援助
- ・市町村広報誌への求人広告（奨学金有無を含む）
- ・定年退職後のマンパワー活用
- ・非常勤薬剤師の雇用
- ・基幹病院の薬剤師確保
- ・地域勤務や配属期間、配属年数の義務化

エ 充足していない場合、考えられる理由。

応募がない	61 (85.9%)
離職率が高い (結婚退職 ・ 子育て退職 ・ 介護退職 ・ 病気退職 ・ 定年退職 ・ 勤続期間が短い)	20 (28.1%)
その他※	12 (16.9%)

※その他

- ・ 保険薬局や企業に比べて給与水準が低い
- ・ 地理的条件が悪い
- ・ 介護退職
- ・ 病院薬剤師の役割は大きく責任も重いため、条件の良い保険薬局へ人が流れている
- ・ 育休・育短勤務者が多い。働き方改革による有給休暇の取得増加
- ・ 勤務地が市中心部より離れている
- ・ 保険薬局への転職
- ・ 人員が少ないため、一人あたりの日当直業務の負担が大きい。
- ・ 土日祝のまとまった連休がとりづらい。
- ・ 産休、育休等の長期休暇中（時短を含む）の人員確保
- ・ 病棟業務実施加算の時間的要件を満たすには、休暇時のサポート体制の構築が必要
- ・ 国立病院機構全体として募集及び採用をしている
- ・ 岩手県医療局として取り組んでいる
- ・ 地域に応募する薬剤師がいない
- ・ 情報発信の取り組み

⑥ 薬剤師の派遣について

ア 病院の業務維持・向上のために、他施設から薬剤師の派遣（出向）が可能となった場合、派遣を必要とするか？

はい 39 (54.9%)	いいえ 32 (45.0%)
---------------	----------------

イ 前問アで「派遣を必要とする」と回答した病院のうち、薬剤師が派遣された際、どのような業務を推進したいか？

< 1 名派遣 >

業務内容	最も当てはまるもの	当てはまるもの
中央業務の充実	9 (12.7%)	20 (28.2%)
チーム医療への参加※ ¹		3 (4.2%)
病棟薬剤業務実施加算の算定	7 (9.9%)	14 (19.7%)
薬剤管理指導料の件数増加	9 (12.7%)	16 (22.5%)
その他※ ²	2 (2.8%)	7 (9.9%)

※1 チーム名

- ・A S T
- ・がん化学療法
- ・緩和ケア
- ・周術期
- ・感染対策
- ・医療安全

※2 その他

- ・中央業務の充実
- ・病棟業務補助
- ・指導補助
- ・入院支援業務
- ・日直業務の支援
- ・常勤職員不在時の業務維持

< 2名派遣 >

業務内容	最も当てはまるもの	当てはまるもの
中央業務の充実	6 (8.5%)	10 (14.0%)
チーム医療への参加※ ¹		2 (2.8%)
病棟薬剤業務実施加算の算定	10 (14.0%)	11 (15.4%)
薬剤管理指導料の件数増加	7 (9.9%)	18 (25.4%)
その他※ ²	1 (1.4%)	5 (7.0%)

※1 チーム名

- ・がん化学療法
- ・緩和ケア
- ・周術期

※2 その他

- ・中央業務の充実
- ・病棟業務補助
- ・入院支援業務
- ・薬剤師外来
- ・日直業務の支援

【認定薬剤師について】

① 現時点の認定薬剤師の人数

ア 日病薬病院薬学認定薬剤師（日本病院薬剤師会）

0人	53 (74.6%)
1人	11 (15.4%)
2人	2 (2.8%)
3人	1 (1.4%)
4人	2 (2.8%)
6人	1 (1.4%)
10人以上	1 (1.4%)

イ 研修認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）

0 人	41 (57.7%)
1 人	12 (16.9%)
2 人	4 (5.6%)
3 人	8 (11.3%)
4 人	3 (4.2%)
5 人	2 (2.8%)
10 人以上	1 (1.4%)

ウ がん専門薬剤師（日本医療薬学会）

0 人	67 (94.3%)
1 人	4 (5.6%)

エ がん薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）

0 人	62 (87.3%)
1 人	5 (7.0%)
2 人	1 (1.4%)
3 人	1 (1.4%)
4 人	1 (1.4%)
10 人以上	1 (1.4%)

オ がん薬物療法専門薬剤師（日本病院薬剤師会）

0 人	70 (98.5%)
1 人	1 (1.4%)

カ 緩和医療専門薬剤師（日本緩和医療薬学会）

0 人	71 (100%)
-----	-----------

キ 緩和薬物療法認定薬剤師（日本緩和医療薬学会）

0 人	65 (91.5%)
1 人	6 (8.5%)

ク 感染制御専門薬剤師（日本病院薬剤師会）

0 人	70 (98.5%)
1 人	1 (1.4%)

ケ 感染制御認定薬剤師（日本病院薬剤師会）

0 人	63 (88.7%)
1 人	6 (8.5%)
2 人	2 (2.8%)

コ 抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会）

0人	63 (88.7%)
1人	5 (7.0%)
2人	2 (2.8%)
4人	1 (1.4%)

サ 精神科専門薬剤師（日本病院薬剤師会）

0人	69 (97.1%)
1人	1 (1.4%)
2人	1 (1.4%)

シ 精神科薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）

0人	69 (97.1%)
1人	2 (2.8%)

ス 妊婦・授乳婦専門薬剤師（日本病院薬剤師会）

0人	71 (100%)
----	-----------

セ 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）

0人	69 (97.1%)
1人	2 (2.8%)

ソ HIV感染症専門薬剤師（日本病院薬剤師会）

0人	71 (100%)
----	-----------

タ HIV感染症薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）

0人	70 (98.5%)
2人	1 (1.4%)

チ 漢方薬・生薬認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）

0人	69 (97.1%)
2人	1 (1.4%)
3人	1 (1.4%)

ツ 小児薬物療法認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）

0人	67 (94.3%)
1人	2 (2.8%)
2人	2 (2.8%)

テ 日本糖尿病療養指導士（日本糖尿病療養指導士認定機構）

0人	58 (81.6%)
1人	11 (15.4%)
2人	1 (1.4%)
3人	1 (1.4%)

ト NST専門療法士（薬剤師）（日本臨床栄養代謝学会）

0人	49 (69.0%)
1人	15 (21.1%)
2人	4 (5.6%)
3人	1 (1.4%)
5人	2 (2.8%)

ナ 医療情報技師（日本医療情報学会）

0人	69 (97.1%)
1人	1 (1.4%)
2人	1 (1.4%)

② 前問①以外の認定資格を有する薬剤師の人数（自由記載）

- ・医療薬学専門薬剤師 1人
- ・プライマリケア認定薬剤師 1人
- ・認定実務実習指導薬剤師 4人
- ・障害研修認定薬剤師(日本病院薬剤師会) 4人、日病薬認定始動薬剤師(日本病院薬剤師会) 2人、専門薬剤師(日本医療薬学会) 3人、指導薬剤師(日本医療薬学会) 2人、がん指導薬剤師(日本医療薬学会) 1人、薬物療法指導薬剤師(日本医療薬学会) 1人、認定実務実習指導薬剤師(薬学教育協議会) 16人、外来がん治療認定薬剤師(日本臨床腫瘍薬学会) 2人、外来がん治療専門薬剤師(日本臨床腫瘍薬学会) 1人、専門薬剤師(日本医薬品情報学会) 1人、認定薬剤師(日本臨床救急医学会) 1人、公認スポーツファーマシスト(日本アンチ・ドーピング機構) 9人、がん臨床研究専門職認定(日本臨床試験研究会) 1人、周術期管理チーム認定薬剤師(日本麻酔科学会) 3人、JPALS認定薬剤師制度レベル6(日本薬剤師会) 1人、心不全療養指導士(日本循環器学会) 7人、腎臓病療養指導士(日本腎臓病協会) 2人、パーキンソン病療養指導士(日本パーキンソン病・運動障害疾患学会) 1人、公認心理士(日本心理研修センター) 1人、精神薬学認定薬剤師(日本精神薬学会) 1人
- ・腎臓病療養指導士 1名、心不全療養指導士 1名
- ・公認スポーツファーマシスト(日本アンチ・ドーピング機構) 1人
- ・DMAT 2人、救急認定薬剤師 1名
- ・認定実務実習指導薬剤師 3人、JPALS認定薬剤師制度レベル5(日本薬剤師会) 1人・認定実務実習指導薬剤師10人以上、病院薬学認定薬剤師 9人、糖尿病療養指導士 1人、外来がん治療専門薬剤師 1人、外来がん治療認定薬剤師 2人、心不全療養指導士 1人
- ・認定実務実習指導薬剤師 2人、外来がん治療専門薬剤師 1人
- ・医療薬学専門薬剤師 2人、薬物療法指導薬剤師 1人
- ・日本医療薬学会がん指導薬剤師 1人、医療薬学専門薬剤師 1人
- ・医療薬学専門薬剤師（日本医療薬学会） 1人
- ・認定実務実習指導薬剤師 5人

2 アンケート調査の実施結果

(3) 県内の薬局、病院に勤務する40歳未満の薬剤師

岩手県内に所在する薬局（627施設。令和6年10月1日時点。）又は医療機関（89施設。令和6年10月1日時点。）にアンケート用紙を送付し、勤務する40歳未満の薬剤師にWebフォームで回答いただいた。

<回答数 512人（回答率：54.5%※）>

※令和4年(2022)年医師・歯科医師・薬剤師統計 939人（薬局 671人、病院 268人）

【回答者の基本情報】

① 性別

男性	263 (51.4%)
女性	239 (46.7%)
回答しない	10 (2.0%)

② 年齢

24歳	2 (0.4%)
25歳	15 (2.9%)
26歳	35 (6.8%)
27歳	30 (5.9%)
28歳	39 (7.6%)
29歳	40 (7.8%)
30歳	40 (7.8%)
31歳	32 (6.3%)
32歳	38 (7.4%)
33歳	41 (8.0%)
34歳	46 (9.0%)
35歳	53 (10.4%)
36歳	36 (7.0%)
37歳	17 (3.3%)
38歳	27 (5.3%)
39歳	21 (4.1%)

③ 高校卒業時に居住していた都道府県

約7割（70.1%）が岩手県出身者で、次いで、宮城県（8.0%）、青森県（4.7%）であり、東北6県の出身者がほとんど（87.7%）であった。

北海道	8 (1.6%)
青森県	24 (4.7%)
岩手県	359 (70.1%)
秋田県	11 (2.1%)

宮城県	41 (8.0%)
山形県	5 (1.0%)
福島県	9 (1.8%)
栃木県	4 (0.8%)
群馬県	1 (0.2%)
茨城県	3 (0.6%)
千葉県	9 (1.8%)
埼玉県	8 (1.6%)
東京都	6 (1.2%)
神奈川県	9 (1.8%)
新潟県	4 (0.8%)
長野県	2 (0.4%)
愛知県	1 (0.2%)
奈良県	1 (0.2%)
大阪府	4 (0.8%)
兵庫県	1 (0.2%)
山口県	1 (0.2%)
愛媛県	1 (0.2%)

④ 卒業した大学について

岩手県に所在する大学を卒業した方が最も多く(51.6%)、次いで、宮城県(22.5%)、東京都(7.2%)であった。また、東北に所在する大学出身者が多く(79.7%)、ほとんど(98.2%)が私立大学であった。

ア 所在する都道府県名

北海道	14 (2.7%)
青森県	10 (2.0%)
岩手県	264 (51.6%)
宮城県	115 (22.5%)
福島県	19 (3.7%)
栃木県	4 (0.8%)
群馬県	2 (0.4%)
千葉県	14 (2.7%)
埼玉県	8 (1.6%)
東京都	37 (7.2%)
神奈川県	5 (1.0%)
新潟県	2 (0.4%)
富山県	1 (0.2%)
石川県	2 (0.4%)
静岡県	2 (0.4%)

京都府	2 (0.4%)
大阪府	5 (1.0%)
愛媛県	1 (0.2%)
福岡県	3 (0.6%)
宮崎県	1 (0.2%)

イ 運営者の種別

国立	7 (1.4%)
公立	2 (0.4%)
私立	503 (98.2%)

⑤ 就業状況

勤務先の種別は6割以上(65.4%)が「薬局」勤務者であり、勤務形態はほとんど(97.3%)が「常勤」であった。

勤務年数は、「1年」が最も多く(15.0%)で、次いで、「2年」(14.8%)、「3年」(13.5%)、「4年」(10.9%)の順で多かった。

また、回答者の約3割(30.7%)が転職を経験しており、現在の勤務先に勤務する前に勤務していた業態について、「病院」と回答された方が16.8%、「薬局」と回答された方が29.1%であった。

ア 勤務先の種別

病院	177 (34.6%)
薬局	335 (65.4%)

イ 勤務形態

常勤	498 (97.3%)
非常勤	14 (2.7%)

ウ 勤務年数

1年未満	31 (6.1%)
1年	77 (15.0%)
2年	76 (14.8%)
3年	69 (13.5%)
4年	56 (10.9%)
5年	40 (7.8%)
6年	25 (4.9%)
7年	29 (5.7%)
8年	20 (3.9%)
9年	25 (4.9%)
10年	25 (4.9%)
11年	12 (2.3%)

12 年	8 (1.6%)
13 年	3 (0.6%)
14 年	3 (0.6%)
15 年	8 (1.6%)
16 年	5 (1.0%)

エ 現在の勤務先以外も含む病院および薬局での勤続年数

1 年未満	49 (9.6%)
1 年	23 (4.5%)
2 年	41 (8.0%)
3 年	35 (6.8%)
4 年	42 (8.2%)
5 年	46 (9.0%)
6 年	30 (5.9%)
7 年	43 (8.4%)
8 年	45 (8.8%)
9 年	37 (7.2%)
10 年	39 (7.6%)
11 年	25 (4.9%)
12 年	17 (3.3%)
13 年	10 (2.0%)
14 年	4 (0.8%)
15 年	13 (2.5%)
16 年	8 (1.6%)
17 年	5 (1.0%)

オ 現在の勤務先に勤務する前に勤務していた業態

病院	86 (16.8%)
薬局	149 (29.1%)
病院・薬局以外	15 (2.9%)
ない (学生)	279 (54.5%)

カ これまでの病院・薬局への転職回数

0 回	355 (69.3%)
1 回	109 (21.3%)
2 回	32 (6.3%)
3 回	11 (2.1%)
4 回	5 (1.0%)

⑥ 奨学金について

5割超（51.6%）の方が貸与型の奨学金を借りたことがあり、その返済総額は「300万円～399万円」が最も多く（14.4%）、「500万円未満」が36.0%、「500万円～1,000万円未満」が29.5%であり、「1,000万円以上」が23.5%であった。

年間の返済額（およその平均額）は、「20万円～29万円」が最も多く（13.6%）、次いで、「10万円～19万円」（12.5%）、「30万円～39万円」（11.0%）、「50万円～59万円」（10.2%）の順で多く、返済期間は「20年～24年」が約半数（50.8%）であった。

支援を受けた先としては、「日本学生支援機構」が7割超（76.1%）であり、その他、企業や自治体から支援を受けた、複数の支援を受けた、という回答もみられた。

ア 貸与型の奨学金を借りたことがあるか？

はい 264人（51.6%）	いいえ 248人（48.4%）
----------------	-----------------

イ 「貸与型の奨学金を借りたことがある」場合（264人）、その返済総額（既に返済した分も含めた総額）は？

返済総額	人数	割合
100 万円未満	5	1.9%
100 万円～199 万円	5	1.9%
200 万円～299 万円	22	8.3%
300 万円～399 万円	38	14.4%
400 万円～499 万円	25	9.5%
500 万円～599 万円	17	6.4%
600 万円～699 万円	15	5.7%
700 万円～799 万円	18	6.8%
800 万円～899 万円	21	8.0%
900 万円～999 万円	7	2.7%
1000 万円～1099 万円	25	9.5%
1100 万円～1199 万円	1	0.4%
1200 万円～1299 万円	17	6.4%
1300 万円～1399 万円	7	2.7%
1400 万円～1499 万円	4	1.5%
1500 万円～1999 万円	4	1.5%
2000 万円以上	4	1.5%

ウ 「貸与型の奨学金を借りたことがある」場合、その年間の返済額（おおよその平均額）は？

年間の返済額	人数	割合
10 万未満	26	9.8%
10 万円～19 万円	33	12.5%
20 万円～29 万円	36	13.6%
30 万円～39 万円	29	11.0%
40 万円～49 万円	19	7.2%
50 万円～59 万円	27	10.2%
60 万円～69 万円	22	8.3%
70 万円～79 万円	12	4.5%
80 万円～89 万円	5	1.9%
90 万円～99 万円	4	1.5%
100 万円～109 万円	3	1.1%
120 万円～129 万円	1	0.4%
130 万円～139 万円	1	0.4%
150 万円～159 万円	2	0.8%
180 万円～189 万円	1	0.4%
200 万円～209 万円	3	1.1%
260 万円～269 万円	1	0.4%
300 万円～309 万円	1	0.4%
360 万円～369 万円	2	0.8%
770 万円～779 万円	1	0.4%
一括返済	5	1.9%

エ 「貸与型の奨学金を借りたことがある」場合、その返済期間は？

返済期間	人数	割合
1 年～4 年	14	5.3%
5 年～9 年	14	5.3%
10 年～14 年	15	5.7%
15 年～19 年	30	11.4%
20 年～24 年	134	50.8%
25 年～30 年	10	3.8%
30 年～34 年	6	2.3%
40 年～44 年	2	0.8%
50 年～54 年	1	0.4%
一括、繰上返済	7	2.7%

オ 「貸与型の奨学金を借りたことがある」場合、どちらから借りたか？（複数選択可）

支援先	人数	割合
日本学生支援機構	201	76.1%
大学	14	5.3%
育英会	10	3.8%
銀行	5	1.9%
日本育英会	1	0.4%
伊藤育英会	1	0.4%
個人病院での奨学金	1	0.4%
盛岡医療生活協同組合	1	0.4%
カメイ財団	1	0.4%
岩手県	2	0.8%
岩手民医連	1	0.4%
秋田県育英会	1	0.4%
就職先	1	0.4%
医療生協	1	0.4%
岩手県社会福祉協議会の奨学金	1	0.4%
二戸社会福祉協議会	1	0.4%
市町村	15	5.7%

⑦ 子育てや家族等の介護について

「現在、子育てをしている」と回答された方は24.6%であり、「現在、家族等の介護を行っている」と回答された方が4.7%であった。

ア 現在、子育てを行っているか？（複数選択可）

はい（乳幼児）	112（21.9%）
はい（小学生）	32（6.3%）
はい（中学高校生）	4（0.8%）
いいえ	386（75.4%）

イ 現在、家族等の介護を行っているか？（複数選択可）

はい（自宅）	17（3.3%）
はい（施設）	7（1.4%）
いいえ	488（95.3%）

【現在の仕事等への意識について】

① 現在の仕事や生活、住環境に関する満足度

現在の仕事や生活、住環境について「満足度が高い」ことがうかがえた。

ア 仕事全般（勤務条件や環境等を含む）の満足度

大変満足している	51 (10.0%)
かなり満足している	253 (49.4%)
あまり満足していない	184 (35.9%)
全く満足していない	24 (4.7%)

イ 現在の仕事への「やりがい」

大変満足している	54 (10.5%)
かなり満足している	285 (55.7%)
あまり満足していない	155 (30.3%)
全く満足していない	18 (3.5%)

ウ 現在の（仕事以外の）「生活」

大変満足している	80 (15.6%)
かなり満足している	287 (56.1%)
あまり満足していない	126 (24.6%)
全く満足していない	19 (3.7%)

エ 現在勤務している「地域」

大変満足している	107 (20.9%)
かなり満足している	258 (50.4%)
あまり満足していない	112 (21.9%)
全く満足していない	35 (6.8%)

オ 現在勤務している「業態（病院・薬局）」

大変満足している	97 (18.9%)
かなり満足している	313 (61.1%)
あまり満足していない	94 (18.4%)
全く満足していない	8 (1.6%)

② 就職先として決める時点で、現在の勤務先についての情報を把握していたか？

様々な情報を収集したうえで就職先を決めていることがうかがえた。

ア 就職初年度の年収

十分に知っていた	118 (23.0%)
おおよそは知っていた	342 (66.8%)
全く知らなかった	52 (10.2%)

イ 昇給のペース

十分に知っていた	59 (11.5%)
おおよそは知っていた	282 (55.1%)
全く知らなかった	171 (33.4%)

ウ 業務内容・やりがい

十分に知っていた	57 (11.1%)
おおよそは知っていた	395 (77.1%)
全く知らなかった	60 (11.7%)

- ③ 現在の勤務先についての情報は、就職先として決める時点で想像していたものと比べて、違いはあったか？

実際に勤務しての印象は、勤務する前に想像してものと同様だったと回答された方が多い傾向が見られた。

ア 就職初年度の年収

高かった	56 (10.9%)
ほぼ同様だった	372 (72.7%)
低かった	84 (16.4%)

イ 昇給のペース

高かった	56 (10.9%)
ほぼ同様だった	323 (63.1%)
低かった	133 (26.0%)

ウ 業務内容・やりがい

違いはなかった	60 (11.7%)
ほぼ同様だった	375 (73.2%)
違いがあった	77 (15.0%)

- ④ 現在の勤務先が就職時の想像と違っていたことを理由として、今後、転職を考えているか？

ア 就職初年度の年収 (n=84)

考えている	36 (42.9%)
考えていない	46 (54.8%)

イ 昇給のペース (n=133)

考えている	81 (60.9%)
考えていない	50 (37.6%)

ウ 業務内容・やりがい (n=77)

考えている	54 (70.1%)
考えていない	20 (25.9%)

⑤ 勤務先や勤務地域について

ア 出身地

都市部（市）	362 (70.7%)
人口1万人以上の町村	103 (20.1%)
人口1万人未満の町村	47 (9.2%)

イ 現在の勤務地

都市部（市）	344 (67.2%)
人口1万人以上の町村	140 (27.3%)
人口1万人未満の町村	28 (5.5%)

ウ 現在の勤務地は、以下のうち、どの地域に該当するか？（複数選択可）

出身地（実家や親類の居住地に近い等）	215 (42.0%)
配偶者など家族の勤務地に近い地域	96 (18.8%)
出身大学に近い地域	79 (15.4%)
知人の勤務地域もしくは居住地域	20 (3.9%)
複数勤務地がある中、勤務先法人が決めた勤務地	178 (34.8%)
その他※	21 (4.1%)

※その他

- ・前職の店舗がある同エリアの薬局に転職。
- ・なんとなく。
- ・見学してやりがいを感じたため。
- ・大学がある県で、実務実習でお世話になった地域。
- ・給与で決定。
- ・異動。
- ・希望勤務先。
- ・転職斡旋会社の提示した転職先である程度、出身地から近い地域。
- ・出身地から全く離れた場所。
- ・求人があったところ。
- ・開業場所。
- ・知人の紹介。
- ・配偶者の家族（両親）がいる都道府県。
- ・結婚後の転居地。
- ・全国勤務のため特にゆかりなし。

エ 現在の勤務地で勤務する決め手になった理由は？

出身地（実家や親類の居住地に近い等）	196（38.3%）
配偶者など家族の勤務地に近い地域	65（12.7%）
出身大学に近い地域	24（4.7%）
知人の勤務地域もしくは居住地域	8（1.6%）
複数勤務地がある中、勤務先法人が決めた勤務地	117（22.9%）
その他※	17（3.3%）
理由はない	63（12.3%）

※その他

- ・転職斡旋会社から提示された選択肢の中で、給与が一番高かった会社で、地元から遠くもない地域。
- ・適当に決めました。
- ・結婚を機に各実家にアクセスがいい地域。
- ・結婚。
- ・妻の勤務地と今後の居住地を考慮した。
- ・家族、親戚の希望。
- ・地域連携が進んでいるから。
- ・見学してやりがいを感じたため。
- ・自分自身で決めた勤務地。
- ・奨学金を借りていたので就職するしかなかった。
- ・住んでみたかった県だったから。
- ・家を建てた為。
- ・天候や温度など自然環境と発展具合が希望に近かった。
- ・副業で行っている農業との2拠点住居が可能になるため。
- ・患者さんと話しやすい。

オ 現在の勤務先・勤務地を就職先として決める前に重視していた点について

仕事面で「重視していた点」としては、「給与水準」（64.1%）、「業務内容」（49.0%）、「福利厚生制度」（44.9%）、「やりがい」（43.6%）、「休暇の取りやすさ」（43.0%）が4割を超えていた。「不安に感じていた点」で3割を超えていたのは「職場の人間関係」のみであった。

生活面で「重視していた点」としては、「住居が快適か」（37.3%）、「スーパー、金融機関などが整っているか」（30.1%）、「趣味・娯楽などプライベートを充実させられるか」（29.7%）が多く挙げられた。

<仕事面>	重視していた	不安に感じていた
給与水準	328（64.1%）	108（21.1%）
昇給ペース	173（33.8%）	117（22.9%）
勤務時間の長さ	192（37.5%）	118（23.0%）
短時間勤務のしやすさ	84（16.4%）	72（14.1%）
勤務日や勤務時間を柔軟に設定しやすいか	163（31.8%）	101（19.7%）
付与された休暇日数	188（36.7%）	75（14.6%）
休暇の取りやすさ	220（43.0%）	130（25.4%）
通勤時間の長さ	194（37.9%）	94（18.4%）

通勤の利便性	188 (36.7%)	89 (17.4%)
業務内容	251 (49.0%)	79 (15.4%)
やりがい	223 (43.6%)	79 (15.4%)
多職種との関係性	137 (26.8%)	71 (13.9%)
上司や同僚からのサポート	132 (25.8%)	114 (22.3%)
職場の人間関係	192 (37.5%)	166 (32.4%)
スキルアップのための研修制度	164 (32.0%)	65 (12.7%)
副業のしやすさ	34 (6.6%)	81 (15.8%)
福利厚生制度	230 (44.9%)	66 (12.9%)
育休等の休業制度	138 (27.0%)	55 (10.7%)
地域ならではの業務慣行	46 (9.0%)	71 (13.9%)
特にない	23 (4.5%)	46 (9.0%)
その他※	5 (1.0%)	7 (1.4%)

※その他（自由記載）

- ・会社自体の経営の持続性など。
- ・異動がある。
- ・勤務地。
- ・持病への理解や配慮。

<生活面>	重視していた	不安に感じていた
自然災害が少ない地域か	89 (17.4%)	55 (10.7%)
物価が安い	64 (12.5%)	32 (6.3%)
スーパー、金融機関などが整っているか	154 (30.1%)	51 (10.0%)
医療体制が整っているか	103 (20.1%)	32 (6.3%)
保育・教育環境が整っているか	88 (17.2%)	28 (5.5%)
介護が行いやすい環境か	41 (8.0%)	20 (3.9%)
住居が快適か	191 (37.3%)	51 (10.0%)
公共交通機関が整っているか	129 (25.2%)	64 (12.5%)
都市部へのアクセス性は良いか	131 (25.6%)	57 (11.1%)
近所付き合いが良好か	36 (7.0%)	34 (6.6%)
地域に同世代の住人が多いか	36 (7.0%)	28 (5.5%)
趣味・娯楽などプライベートを充実させられるか	152 (29.7%)	59 (11.5%)
リフレッシュできる施設・環境があるか	119 (23.2%)	55 (10.7%)
特にない	125 (24.4%)	81 (15.8%)
その他※	7 (1.4%)	1 (0.2%)

※その他（自由記載）

- ・友人と近いか。
- ・首都圏出身の妻がついてきてくれるか。
- ・出身地に近い。
- ・出身地だから。
- ・実家から近いか。
- ・転勤がない。

カ 就職後に、現在の勤務先・勤務地について感じている点について

仕事面で「魅力を感じている点」として、約3割の方が「休暇の取りやすさ」(29.7%)を挙げられた。「現在、転職を検討する要因になっている点」として、「昇給ペース」(31.6%)、「給与水準」(30.5%)が多く挙げられた。

＜仕事面＞	不安が解消した	魅力を感じている	現在、転職を検討する要因になっている
給与水準	63 (12.3%)	100 (19.5%)	156 (30.5%)
昇給ペース	49 (9.6%)	51 (10.0%)	162 (31.6%)
勤務時間の長さ	67 (13.1%)	76 (14.8%)	77 (15.0%)
短時間勤務のしやすさ	54 (10.5%)	57 (11.1%)	40 (7.8%)
勤務日や勤務時間を柔軟に設定しやすいか	54 (10.5%)	107 (20.9%)	70 (13.7%)
付与された休暇日数	58 (11.3%)	116 (22.7%)	36 (7.0%)
休暇の取りやすさ	74 (14.5%)	152 (29.7%)	97 (18.9%)
通勤時間の長さ	65 (12.7%)	90 (17.6%)	44 (8.6%)
通勤の利便性	54 (10.5%)	84 (16.4%)	44 (8.6%)
業務内容	57 (11.1%)	92 (18.0%)	69 (13.5%)
やりがい	56 (10.9%)	95 (18.6%)	65 (12.7%)
多職種との関係性	48 (9.4%)	85 (16.6%)	29 (5.7%)
上司や同僚からのサポート	61 (11.9%)	84 (16.4%)	65 (12.7%)
職場の人間関係	84 (16.4%)	89 (17.4%)	77 (15.0%)
スキルアップのための研修制度	35 (6.8%)	76 (14.8%)	47 (9.2%)
副業のしやすさ	28 (5.5%)	23 (4.5%)	79 (15.4%)
福利厚生制度	40 (7.8%)	118 (23.0%)	40 (7.8%)
育休等の休業制度	34 (6.6%)	95 (18.6%)	26 (5.1%)
地域ならではの業務慣行	29 (5.7%)	34 (6.6%)	30 (5.9%)
特にない	58 (11.3%)	32 (6.3%)	44 (8.6%)
その他※	3 (0.6%)	3 (0.6%)	7 (1.4%)

※その他（自由記載）

- ・会社上層部の高齢化。悪い意味で保守的な考え。
- ・従業員のスキルの低さ、やる気のなさ、適当にやっても薬剤師不足だからクビにできないでしょって感じ。
- ・転勤範囲。
- ・勤務地の希望を出しても考慮されない。そのため、経験できている業務に制限があること。
- ・取引先(病院)との関係。
- ・居住地。
- ・持病への理解がある上層部が全員退職したため、身体的精神的負担の増加。

＜生活面＞	不安が解消した	魅力を感じている	現在、転職を検討する要因になっている
自然災害が少ない地域か	59 (11.5%)	39 (7.6%)	26 (5.1%)
物価が安い	29 (5.7%)	35 (6.8%)	18 (3.5%)
スーパー、金融機関などが整っているか	59 (11.5%)	74 (14.5%)	28 (5.5%)
医療体制が整っているか	39 (7.6%)	59 (11.5%)	26 (5.1%)
保育・教育環境が整っているか	42 (8.2%)	50 (9.8%)	22 (4.3%)
介護が行いやすい環境か	21 (4.1%)	21 (4.1%)	17 (3.3%)
住居が快適か	49 (9.6%)	80 (15.6%)	26 (5.1%)
公共交通機関が整っているか	31 (6.1%)	45 (8.8%)	58 (11.3%)
都市部へのアクセス性は良いか	36 (7.0%)	54 (10.5%)	66 (12.9%)
近所付き合いが良好か	30 (5.9%)	18 (3.5%)	14 (2.7%)
地域に同世代の住人が多いか	24 (4.7%)	15 (2.9%)	23 (4.5%)
趣味・娯楽などプライベートを充実させられるか	45 (8.8%)	72 (14.1%)	59 (11.5%)
リフレッシュできる施設・環境があるか	41 (8.0%)	60 (11.7%)	46 (9.0%)
特になし	132 (25.8%)	102 (19.9%)	97 (18.9%)
その他※	1 (0.2%)	3 (0.6%)	3 (0.6%)

※その他（自由記載）

- ・友人と遠い。
- ・食べ物が美味しい。

⑥ 現在の勤務先における仕事のやりがいについて

回答者の約7割（69.9%）が、現在の仕事に「やりがいを感じている」と回答された。「やりがいを感じていること」として、「患者に密着した業務を行えること」（58.7%）、「他職種と密に連携して業務を行えること」（36.0%）、「多くの患者に対する調剤・薬学的管理等の業務を行えること」（34.9%）の順で多く挙げられた。

また、「（勤務する）決め手になったもの」としては、「患者に密着した業務を行えること」（47.8%）、「多くの患者に対する調剤・薬学的管理等の業務を行えること」（30.2%）の順で多く挙げられた。

ア 現在の勤務先における仕事にやりがいを感じているか？

はい 358 (69.9%)	いいえ 154 (30.1%)
----------------	-----------------

- イ 「現在の勤務先における仕事にやりがいを感じている」 場合（n=358）、やりがいに感じていることは？（複数選択可）
また、そのうち、決め手になったものがあるか（上位3つまで）

＜やりがい＞	やりがいに感じていること	勤務する決め手になったもの
患者に密着した業務を行えること	210 (58.7%)	171 (47.8%)
他職種と密に連携して業務を行えること	129 (36.0%)	96 (26.8%)
薬剤師1人が担当する業務種類が多いこと	101 (28.2%)	77 (21.5%)
多くの研修を受講できること	67 (18.7%)	53 (14.8%)
多くの患者に対する調剤・薬学的管理等の業務を行えること	125 (34.9%)	108 (30.2%)
限られた患者に対する調剤・薬学的管理等の業務を行えること	31 (8.7%)	16 (4.5%)
希少な疾患にかかる調剤・薬学的管理を行えること	50 (14.0%)	29 (8.1%)
多くの種類の疾患にかかる調剤・薬学的管理等を行えること	91 (25.4%)	85 (23.7%)
薬物療法におけるリスクマネジメント（医療安全）に貢献できること	40 (11.2%)	17 (4.7%)
在宅業務を行えること	63 (17.6%)	54 (15.1%)
チーム医療を行えること	98 (27.4%)	60 (16.8%)
高度な薬学管理を経験できること	47 (13.1%)	37 (10.3%)
専門・認定薬剤師などの資格を取得できること	70 (19.6%)	64 (17.9%)
臨床研究等を経験、実施できること	10 (2.8%)	6 (1.7%)
その他※	7 (1.7%)	10 (2.8%)

※その他（自由記載）

【やりがいに感じていること】

- ・なんの仕事でもそれなりにやることはあって、それを達成できればある程度はやりがいあります。
- ・店舗責任者として店舗のマネジメントができること。
- ・給与。
- ・必要と思える額の給与が稼げること。
- ・ワンオペレーションですべての業務ができること。

【勤務する決め手になったもの】

- ・営業時間（平日半休が固定）。
- ・年収。
- ・自営業のため。
- ・通勤時間の少なさ。
- ・携わりたい診療科（小児科）があったこと。
- ・福利厚生。
- ・通いやすい。

⑦ 就業に関する条件について（複数選択可）

勤務する地域の規模や業態によらず、給与面を重視する方が多かった。

また、業態によらず、給与以外の仕事面や生活面を重視する傾向が見られた。

	都市部での勤務	人口1万人以上の町村での勤務	人口1万人未満の町村での勤務	病院での勤務	薬局での勤務
給与面（給与水準、昇給ベース）の条件	339 (66.2%)	250 (48.8%)	217 (42.4%)	247 (48.2%)	266 (52.0%)
仕事面（給与面以外）の条件	262 (51.2%)	168 (32.8%)	143 (27.9%)	181 (35.4%)	210 (41.0%)
生活面の条件	265 (51.8%)	195 (38.1%)	165 (32.2%)	163 (31.8%)	193 (37.7%)
その他の条件	56 (10.9%)	18 (3.5%)	15 (2.9%)	23 (4.5%)	40 (7.8%)
条件によらず勤務しても良い	76 (14.8%)	24 (4.7%)	24 (4.7%)	35 (6.8%)	46 (9.0%)
いずれの条件でも勤務したくない	22 (4.3%)	35 (6.8%)	89 (17.4%)	86 (16.8%)	32 (6.3%)

⑧ 過去の勤務地の移動について

現在の勤務地が、「町村であり、かつ過去に都市部（市）での勤務経験があったり、出身地が都市部（市）」である方について

回答者のうち2割超（21.3%）の方が、「都市部から町村」に勤務地を移動した経験があると回答された。

そのうちの約4割（39.3%）が「自らの意思」で移動したと回答され、理由としては、「仕事に関すること」が多かった。

また、「（移動時に）単身者であった方」（69.7%）が多かった。

ア 「都市部から町村」に勤務地を移動した年代は？（複数ある場合は、初回について）

20代	84 (16.4%)
30代	25 (4.9%)

イ 「都市部から町村」に勤務地を移動したのは自らの意思か？

自らの意思	44 (39.3%)
自らの意思ではない	68 (60.7%)

ウ 「自らの意思で移動した」理由は？（複数選択可）

給与面	24 (54.5%)
仕事面（給与面以外）	22 (50.0%)
生活面	16 (36.4%)
特に理由はない	25 (56.8%)
その他※	12 (27.3%)

※その他

- ・大学進学のため。
- ・病院の移転
- ・実家の薬局へ帰った。
- ・家から20分程度で通えるため。
- ・打診があったため。
- ・大学が勤務地近くだったため。

エ 本人以外の家族等も移動したか？

理由	人数
移動した時点で二人以上世帯で、夫婦で移動した	12 (11.0%)
移動した時点で二人以上世帯で、家族（夫婦＋子ども）で移動した	3 (2.8%)
移動した時点で二人以上世帯で、回答者が単身で移動した	6 (5.5%)
移動した時点で単身世帯であった	76 (69.7%)

【現在の勤務地や勤務先で、薬剤師が継続して働けるようにするための取組事例】

※ （ ）内の数字は、同様の回答数。

	実施主体	取組内容
仕事面	勤務先	資格取得（維持を含む）のための支援（37） 休暇の取りやすさ（8） 給与アップ（8） 研修会参加費用負担・サポート（6） 学会等への参加の支援（5） 研修制度（5） 奨学金の返済支援（3） 薬剤師の確保（3） 各種福利厚生制度の充実（2） 休暇・勤務時間調整（2） 資質向上に対する評価（給与面等）（2） 業務の効率化（2） 残業がないこと 多職種連携の取組 在宅医療への参画 実務実習参加

		業務上わからないことに相談できるシステム 処方内容に応じた人員配置 週休3日制の導入など自由な働き方 休みやすい環境 子育て支援 男性の育児休業推進 年功序列の昇任廃止 薬局見学や会社説明会 薬局勤務者同士による集まり 他職種との集まり Ｕターン・Ｉターンの人への補助（賃金や移住居住サポート） 人間関係に問題がある人を野放しにしない 社会人として規則を守らない職員を会社が教育すること
	自治体	資格取得（維持を含む）のための支援（８） 休暇の取りやすさ（４） 給与アップ（３） 薬剤師の確保（２） 奨学金の返済支援（２） 子育て支援 研修制度 多職種連携の取組 在宅医療への参画 業務上わからないことに相談できるシステム 学会等への参加の支援 業務の効率化 Ｕターン・Ｉターンの人への補助（賃金や移住居住サポート） 薬局勤務者同士による集まり 他職種との集まり 薬剤師や薬局の在り方について、周囲の認識を変える
	その他	資格取得（維持を含む）のための支援 医薬品流通の正常化 時間外対応の内容改善 副業の容認 Ｕターン・Ｉターンの人への補助（賃金や移住居住サポート）
生活面	勤務先	育児休業制度の充実（１８） 休みの取りやすさ（１３）

		産前・産後休業制度の充実（10） 子育て支援（9） 時短勤務（8） 給料アップ（4） 男性の育児休業推進（3） 院内保育所等の企業主導型の保育施設（3） 介護休暇等の充実（2） 家賃補助（2） 薬剤師の確保（2） 扶養手当 家族環境を加味した勤務形態の個別対応 常勤からパート勤務への移行可 都会へのアクセスの容易さ 長期休暇を取得できる制度 年2回のプライベート充実休暇 子育て世代の夜勤等の勤務免除 借上社宅 地域薬剤師会と交流 寒冷地手当 婚活支援 育児休業中の給与補償期間延長 勤務先を希望通りにすること
	自治体	休みの取りやすさ（5） 子育て支援（5） 給料アップ（3） 産前・産後休業制度の充実（2） 家賃補助（2） 育児休業制度の充実 寒冷地手当 婚活支援 育児休業中の給与補償期間延長 勤務先を希望通りにすること 少子高齢化対策 待機児童なし 保育料0歳児より無償化
	その他	自動車の貸与 子育て支援 保育園との事業提携 自宅周辺の環境整備 Uターン・Iターンの人への補助（賃金や移住居住サポート）

その他	勤務先	休みの取りやすさ（２） 給料アップ（２） 奨学金手当 就業環境の見直し 毎年、異動希望の確認があること 職場環境（人間関係）を整える（毎朝の申し送り 事項や意見交換等の実施） 産休・育休取得後の職場復帰に際してのフォロー アップの充実 奨学金返済支援 残業なし 薬剤師の確保 子育て支援
	自治体	給料アップ（２） 薬剤師確保に向けた地域の良さをアピールする 中小の薬局への就職支援 休みのとりやすさ 子育て支援 若手薬剤師の場合、規模の大きな病院に配属し て、年単位ではなくもっと短いスパンで入れ替え をする
	その他	福利厚生の充実 スキル支援 Ｕターン・Ｉターンの人への補助（賃金や移住居 住サポート） ハラスメント対策

2 アンケート調査の実施結果

(4) 県内の薬学部に通学する学生

岩手医科大学薬学部に通学し、在籍している薬学生（260人）に案内し、Webフォームで回答いただいた。

<回答数 93人（回答率：35.8%）>

【回答者の基本情報】

① 性別

男性 30人（32.3%）	女性 63人（67.7%）
---------------	---------------

② 年齢・学年

年齢	人数	割合
18歳	2	2.2%
19歳	10	10.8%
20歳	12	12.9%
21歳	11	11.8%
22歳	15	16.1%
23歳	16	17.2%
24歳	11	11.8%
25歳	3	3.2%
26歳	2	2.2%
27歳	1	1.1%
31歳	1	1.1%
35歳	1	1.1%
回答なし	8	8.6%

学年	人数	割合
1年生	11	11.8%
2年生	8	8.6%
3年生	11	11.8%
4年生	18	19.4%
5年生	19	20.4%
6年生	21	22.6%
博士課程4年生	1	1.1%
回答なし	4	4.3%

③ 高校卒業時に居住していた都道府県

6割以上（65.6%）の学生が岩手県出身者で、次いで、秋田県（11.8%）、青森県（10.8%）であり、北東北3県の出身者がほとんど（88.2%）であった。

青森県	10（10.8%）
岩手県	61（65.6%）
秋田県	11（11.8%）
宮城県	4（4.3%）
山形県	3（3.2%）
福島県	2（2.2%）
群馬県	1（1.1%）
東京都	1（1.1%）

④ 奨学金について

回答者の約半数（49.5%）が「貸与型の奨学金を借りている」と回答された。

その貸与総額は、「1,200万円以上」が最も多く（17.4%）、「600万円以上」の方が半数以上（52.2%）であり、年間の貸与額（おおよその平均額）は「60万円～99万円」が最も多く、100万円以上の方が6割超（60.9%）であった。その貸与期間は「6年」が7割超（73.9%）であり、次いで、4年（10.9%）という順であった。

支援を受けている先としては、「日本学生支援機構」が約8割（80.4%）であり、その他、企業や自治体から支援を受けている、複数の支援を受けている、という回答もみられた。

また、「岩手県内での勤務を条件とした奨学金の返済支援があれば受けたいか」については、6割（60.2%）の方が、「岩手県内での勤務を条件とした奨学金の返済支援があれば受けたい」と回答され、さらに、「どのくらいの期間であれば勤務してもよいか」については、「期間にはこだわらない」（33.9%）と「3年まで」（30.4%）が多く、「5年まで」（16.1%）、「2年まで」（12.5%）という回答も一定程度みられた。

ア 貸与型の奨学金を借りているか？

はい 46人（49.5%）	いいえ 47人（50.5%）
---------------	----------------

イ 「貸与型の奨学金を借りている」場合、その貸与総額（既に貸与を受けた分も含めた総額）は？

貸与総額	人数	割合
199 万円以下	4	8.7%
200 万円～399 万円	6	13.0%
400 万円～599 万円	6	13.0%
600 万円～799 万円	6	13.0%
800 万円～999 万円	7	15.2%
1,000 万円～1,199 万円	3	6.5%
1,200 万円以上	8	17.4%
回答なし	6	13.0%

ウ 「貸与型の奨学金を借りている」場合、その年間の貸与額（おおよその平均額）は？

年間の貸与額	人数	割合
59 万円以下	4	8.7%
60 万円～99 万円	9	19.6%
100 万円～139 万円	7	15.2%
140 万円～179 万円	7	15.2%
180 万円～219 万円	8	17.4%
220 万円～259 万円	5	10.9%
260 万円以上	1	2.2%
回答なし	5	10.9%

エ 「貸与型の奨学金を借りている」場合、その貸与期間は？

貸与期間	人数	割合
2年	1	2.2%
3年	2	4.3%
4年	5	10.9%
6年	34	73.9%
8年	1	2.2%
回答なし	3	6.5%

オ 「貸与型の奨学金を借りている」場合、奨学金の支援をどこで受けているか？
(複数回答可)

支援先	人数	割合
日本学生支援機構	37	80.4%
大館市	1	2.2%
ブルボン	1	2.2%
花巻市	1	2.2%
北上市	1	2.2%
学生部	1	2.2%
岩手県民主医療機関連合会	1	2.2%
回答なし	6	13.0%

カ 岩手県内での勤務を条件とした奨学金の返済支援があれば受けたいか？

はい 56人 (60.2%)	いいえ 37人 (39.8%)
----------------	-----------------

キ 前問カで「はい」の場合、どのくらいの期間であれば勤務してもよいか？

勤務期間	人数	割合
2年まで	7	12.5%
3年まで	17	30.4%
5年まで	9	16.1%
6年以上	3	5.4%
期間にはこだわらない	19	33.9%
回答なし	1	1.8%

【就職先について】

① 就職を考えている業態は？ (複数選択可)

薬局が最も多く (79.6%)、次いで、病院 (55.9%) という順であった。

病院	52 (55.9%)
診療所	6 (6.5%)
薬局	74 (79.6%)
店舗販売業	17 (18.3%)

卸売販売業	4 (4.3%)
医薬品製造販売業、製造業	14 (15.1%)
行政機関	8 (8.6%)
その他※	4 (4.3%)

※ 「薬局や病院などの経営」「学校」「研究所」「大学院進学」

② どのような条件が整えば、勤務してもよいか？（複数選択可）

条件にかかわらず、人口の多い地域での勤務を希望する方が多くみられた。

また、業態では、病院よりも薬局での勤務を希望する方が多かった。

	都市部での勤務	人口1万人以上の町村での勤務	人口1万人未満の町村での勤務	病院での勤務	薬局での勤務
給与面（給与水準、昇給ベース）の条件	60人 (64.5%)	58 (62.4%)	45 (48.4%)	55 (59.1%)	63 (67.7%)
仕事面（給与面以外）の条件	49 (52.7%)	48 (51.6%)	34 (36.6%)	49 (52.7%)	61 (65.6%)
生活面の条件	49 (52.7%)	50 (53.8%)	43 (46.2%)	46 (49.5%)	55 (59.1%)
その他の条件	13 (14.0%)	14 (15.1%)	9 (9.7%)	18 (19.4%)	23 (24.7%)
条件によらず勤務しても良い	16 (17.2%)	13 (14.0%)	6 (6.5%)	17 (18.3%)	21 (22.6%)
いずれの条件でも勤務したくない	3 (3.2%)	4 (4.3%)	15 (16.1%)	8 (8.6%)	5 (5.4%)

③ 就職先を決める際に重視する点について

「仕事面」では、「給与水準」が最も多く（88.2%）、次いで、「休暇の取りやすさ」（75.3%）であった。以下、「勤務日や勤務時間を柔軟に設定しやすいか」「業務内容」、「福利厚生制度」、「やりがい」「育休等の休業制度」、「勤務時間の長さ」「付与された休暇日数」の順で高く、6割超であった。

「生活面」では、「住居が快適か」が最も高く（75.3%）、次いで「スーパー、金融機関などが整っているか」（72.0%）であった。以下、「公共交通機関が整っているか」、「趣味・娯楽などプライベートを充実させられるか」、「医療体制が整っているか」「都市部へのアクセス性は良いか」、「リフレッシュできる施設・環境があるか」の順で高く、6割超であった。

「勤務地」では、「出身地」（62.4%）が最も高かったが、約2割の方は「特になし」という回答であった。

「やりがい」では、「患者に密着した業務を行えること」(61.3%)が最も高かった。

＜仕事面＞	重視する	不安に感じる
給与水準	82 (88.2%)	22 (23.7%)
昇給ペース	51 (54.8%)	21 (22.6%)
勤務時間の長さ	58 (62.4%)	26 (28.0%)
短時間勤務のしやすさ	43 (46.2%)	19 (20.4%)
勤務日や勤務時間を柔軟に設定しやすいか	62 (66.7%)	26 (28.0%)
付与された休暇日数	58 (62.4%)	22 (23.7%)
休暇の取りやすさ	70 (75.3%)	30 (32.3%)
通勤時間の長さ	55 (59.1%)	21 (22.6%)
通勤の利便性	55 (59.1%)	20 (21.5%)
業務内容	62 (66.7%)	18 (19.4%)
やりがい	59 (63.4%)	14 (15.1%)
多職種との関係性	43 (46.2%)	14 (15.1%)
上司や同僚からのサポート	48 (51.6%)	25 (26.9%)
職場の人間関係	53 (57.0%)	40 (43.0%)
スキルアップのための研修制度	48 (51.6%)	15 (16.1%)
副業のしやすさ	21 (22.6%)	11 (11.8%)
福利厚生制度	61 (65.6%)	18 (19.4%)
育休等の休業制度	59 (63.4%)	14 (15.1%)
地域ならではの業務慣行	23 (24.7%)	9 (9.7%)
キャリアパスの一環として	25 (26.9%)	7 (7.5%)

＜生活面＞	重視する	不安に感じる
自然災害が少ない地域か	35 (37.6%)	26 (28.0%)
物価が安い	39 (41.9%)	19 (20.4%)
スーパー、金融機関などが整っているか	67 (72.0%)	16 (17.2%)
医療体制が整っているか	57 (61.3%)	13 (14.0%)
保育・教育環境が整っているか	51 (54.8%)	12 (12.9%)
介護が行いやすい環境か	26 (28.0%)	15 (16.1%)
住居が快適か	70 (75.3%)	17 (18.3%)
公共交通機関が整っているか	63 (67.7%)	17 (18.3%)
都市部へのアクセス性は良いか	57 (61.3%)	16 (17.2%)
近所付き合いが良好か	30 (32.3%)	16 (17.2%)
地域に同世代の住人が多いか	23 (24.7%)	15 (16.1%)
趣味・娯楽などプライベートを充実させられるか	61 (65.6%)	15 (16.1%)
リフレッシュできる施設・環境があるか	56 (60.2%)	14 (15.1%)
特にな	4 (4.3%)	1 (1.1%)
その他※	2 (2.2%)	1 (1.1%)

- ※ ジムなどの娯楽施設があればどこでもいい。
- ※ 仙台で長年住んでいて慣れているので、電車は地下鉄のようにすぐ来なかったり、1時間に数本しかないところから中々遠くに行くことが難しいように感じました。免許や車を買うのにもお金がかかるので、なるべく公共交通機関を利用したいと思うのですが、交通の利便性を考えると大変そうに感じます。
- ※ 大型ショッピングモールへ出向かないとお店が少なく、欲しい時に欲しいものがすぐに手に入らないと感じました。住む場所にもよりますが、生活をする上で生活に必要な食品や衣類、生活用品、雑貨店などすぐ行けるか不安です。

＜勤務地＞	重視する
出身地（実家や親類の居住地に近い等）	58（62.4）
出身大学に近い地域	8（8.6%）
知人の勤務地域もしくは居住地	19（20.4%）
特にない	19（20.4%）
その他※	7（7.5%）

- ※ 「交通の利便性」「都市部に近い」「都市郊外」「キャリア」「パートナーの居住地」「都心」

＜やりがい＞	重視する
患者に密着した業務を行えること	57（61.3%）
他職種と密に連携して業務を行えること	30（32.3%）
薬剤師1人が担当する業務種類が多いこと	10（10.8%）
多くの研修を受講できること	33（35.5%）
多くの患者に対する調剤・薬学的管理等の業務を行えること	47（50.5%）
限られた患者に対する調剤・薬学的管理等の業務を行えること	10（10.8%）
希少な疾患にかかる調剤・薬学的管理等を行えること	12（12.9%）
多くの種類の疾患にかかる調剤・薬学的管理等を行えること	33（35.5%）
薬物療法におけるリスクマネジメント（医療安全）に貢献できること	26（28.0%）
在宅業務を行えること	20（21.5%）
チーム医療を行えること	34（36.6%）
高度な薬学管理を経験できること	30（32.3%）
専門・認定薬剤師などの資格を取得できること	42（45.2%）
臨床研究等を経験、実施できること	13（14.0%）

④ 転職を含むキャリアアップを考えているか？

8割超（82.8%）が、「転職を含むキャリアアップ」について考えている。

はい 77（82.8%）	いいえ 16（17.2%）
--------------	---------------

＜具体的に想定しているキャリアアップの内容＞

- ・ 学位取得後の異動。
- ・ 専門薬剤師になる。
- ・ 都会で遊びたいから。
- ・ 病院あるいは薬局。

⑤ 岩手県で薬剤師として働くことについて（自由記載）

- ・ 場所によるが岩手県は、交通網もいいし比較的働きやすいと思う。
- ・ 地元なので、ぜひ岩手県で働きたい
- ・ 私は地元岩手県に貢献したい思いがあるため岩手県で働きたいが、奨学金返済があるため、全国勤務（手当が良い）のある所や、給料を重視して就職先を選びました。医者や看護師のように、薬剤師にも返済免除や返済負担の制度がもっとあれば、私も岩手県から離れずに済んだのにな、と思ってます。
- ・ 地域医療に貢献できて良いと思う。
- ・ 地元の医療に貢献できるので嬉しく思う。
- ・ 選択肢としては十分に考えられるが、私生活の面で順位が下がる。
- ・ 奨学金返済の支援制度があるならば働いても良いと考える。
- ・ 薬剤師不足と聞くため沢山働き手がいた方がよいと思う。
- ・ 生まれてからずっと岩手県にいたので、就職を機に県外に出て働くことに惹かれる気持ちはあります。現在借りている奨学金は、自分が借りた期間（6年）、指定された薬局・病院で勤務すれば返済が不要になるため、その期間は岩手県で働くつもりです。
- ・ 地方の薬剤師不足の問題解消に繋がるので岩手県で働いてみたい。
- ・ 地元で働くことで、地元へ恩返しすることができると思います。
- ・ 需要があると思います。
- ・ 地域の医療に貢献できて素晴らしいと考える。
- ・ とてもいいと思う
- ・ 給料が低い。
- ・ 栄えていないところに行くのが不安。
- ・ 興味があるのは病院薬剤師なのですが、薬局等と比べて給料が低く、奨学金の返済とプライベートのバランスが取れないと感じています。生まれ育った岩手県で働きたい気持ちはあるのですが、他県と比べて奨学金返済サポートが手薄であると感じているため、岩手県で就職するかどうか迷っているのが現状です。奨学金返済サポート等が充実すれば、岩手県で薬剤師として働きたいという人も増えると思います。岩手県の薬剤師人口を増やすためにも、病院就職、薬局就職に関わらずサポートが増えれば嬉しいなと思います。
- ・ 岩手県で行うなら大学病院や大学で研究を行いながら働きたい。
- ・ 深刻な高齢化が進む中で多くの患者に寄り添うことに繋がると思う。

【資料編】

「薬剤師確保のための実態調査」の調査項目

- (1) 県内薬局
- (2) 県内病院
- (3) 県内の薬局、病院に勤務する40歳未満の薬剤師
- (4) 県内の薬学部 に在籍する学生

【県内薬局】

回答者情報：メールアドレス、薬局名称、薬局所在地、職・氏名、連絡先（電話）、
薬局が所在する2次保健医療圏

1. 貴局の基本情報

問1-1 貴局の概要についてお伺いします。

1) 事業形態（○は1つ）

1. 株式会社 2. 有限会社 3. 公益・一般社団法人、財団法人 4. 個人
5. その他

2) 営業形態（○は1つ）

1. 薬局のみ 2. 薬局と店舗販売業の併設 3. その他

3) 認定等の状況（あてはまるもの全てに○）

1. 地域連携薬局 2. 専門医療機関連携薬局 3. 健康サポート薬局
4. いずれにも該当しない

4) 在宅患者訪問薬剤管理指導の届出（○は1つ）

1. あり 2. なし

問1-2 同一経営主体の薬局店舗数をお答えください。（数字記入）

※法人が異なるが実質的に同一経営の場合も含みます。

問1-3 （業務の効率化に資する）調剤機器を導入していますか。（○は1つ）

※一包化支援、監査支援、薬剤の取り揃え、外用剤や液剤の調製等の場面で使用
される、調剤にかかる業務の効率化に資する機器をご想定ください。

1. はい、2. いいえ

問1-4 2024年10月末時点で貴局が届け出ている又は2024年10月の1か月間に、算定してい
る調剤報酬項目として該当するものをすべて回答してください。（あてはまるもの
全てに○）

1. 地域支援体制加算 1 2. 地域支援体制加算 2 3. 地域支援体制加算 3
4. 地域支援体制加算 4 5. 連携強化加算 6. 医療DX推進体制整備加算
7. かかりつけ薬剤師指導料 8. かかりつけ薬剤師包括管理料
9. 在宅患者訪問薬剤管理指導料 10. 居宅療養管理指導
11. 在宅薬学総合体制加算 1 12. 在宅薬学総合体制加算 2 13. 退院時共同指導料
14. 上記のうち該当するものはない

2. 薬剤師の確保状況等についてお伺いします。

問2-1 貴局における薬機法に基づく薬剤師法定必要数（薬剤師標準数）をご記入くださ
い。1人40枚で計算（数字記入）

問2-2 貴局における、2024年10月末時点における 1) 薬剤師の定員（法定の定員ではなく
貴局が定める定員をご記載ください。

また 定員を定めていない場合、現在の薬剤師数に、現在募集している薬剤師数を加
算した人数）、2) 薬剤師数（休職を除き、派遣薬剤師を含む）、3) 薬局内のその他の
職員数をご記入ください。（数字記入）

また、4) 県内出身薬剤師数(常勤、非常勤(実人数))及び、5) 県外出身薬剤師数(常勤、非常勤(実人数))をご記入ください。(数字記入)

※常勤換算数の算出方法:「職員の1週間の契約上の労働時間÷貴局の1週間の所定労働時間」にて算出し、小数点以下第2位を四捨五入してください(以降の設問でも同様)。

問2-3 次の取組について、貴局での実施・検討状況(実施済み、実施予定あり、薬剤師が確保できれば実施したい、実施予定なし)をお答えください。(それぞれ1つに○)

※3)4)の健康サポート業務、高度薬学管理業務については、健康サポート薬局、専門医療機関連携薬局の認定等の有無に関わらずお答えください。

- 1) 24時間対応
- 2) 在宅対応
- 3) 健康サポート業務(要指導医薬品等の供給機能や助言、健康相談受付、受診勧奨・関係機関紹介などを想定してください)
- 4) 高度薬学管理業務(専門機関と連携した抗がん剤の副作用対応や抗HIV薬の選択を支援することなどを想定してください)
- 5) 地域での多職種連携
- 6) 要指導医薬品の取扱
- 7) 一般用医薬品の取扱
- 8) オンライン服薬指導対応
- 9) その他、薬剤師が確保できれば実施したい業務(自由記載)

問2-4 現在、薬剤師は充足しているとお考えですか。(それぞれ○は1つ)

- 1) 現在の定員(定員を設定していない場合には、現在の薬剤師数に、現在募集している薬剤師数を加算した人数)を前提とした場合の充足状況
1. 足りている 2. やや足りない 3. 全く足りない
- 2) 需要があり業務を拡大したい場合や、現在薬剤師の人材不足のため実施できていない業務を今後、実施することを前提とした場合の充足状況
1. 足りている 2. やや足りない 3. 全く足りない

問2-5 貴局にとって業務上必要と考える薬剤師の総数(定員数によらない)を、以下に記載する1)に示す前提に従い、常勤職員、非常勤職員(常勤換算)に分けてお答えください。(数字記入)

- 1) 需要があり業務を拡大したい場合や、現在薬剤師の人材不足のため実施できていない業務を今後、実施することを前提とした場合(問2-3で「3. 薬剤師が確保できれば実施したい」を選択した業務を含め実施するとした場合)に必要なと考える薬剤師数の総数

問2-6 貴局の経営層との間で、薬剤師の充足状況の認識が共有されていますか。また、薬剤師確保の方針(確保する目標薬剤師数や確保時期など)は一致していますか。(○は1つ)

1. 共有し 薬剤師確保の方針も一致している
2. 共有しているが 薬剤師確保の方針は一致していない
3. 共有していない

3. 貴局の業務状況についてお伺いします。

問3-1 貴局における、令和5年1月～12月における総取扱処方箋数（整数値）をお答えください。（数字記入）

問3-2 在宅訪問業務の実施回数をお答えください。（延べ回数）（数字記入）

4. 薬剤師の勤務状況についてお伺いします。

問4-1 2024年10月1か月間に貴局で勤務した全ての薬剤師（休職中の者を除き、派遣薬剤師、1か月の途中に入職した者、退職した者を含む）を対象として、2024年10月31日（退職した者については退職時点）における以下の事項をお答えください。

- 1) 勤務形態（10月31日時点）（1つ記入） 1. 常勤 2. 非常勤
- 2) 性別（10月31日時点）（1つ記入） 1. 男性 2. 女性 3. 回答しない
- 3) 年齢階級（10月31日時点）（1つ記入）
1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代以上

5. 薬剤師の採用状況等についてお伺いします。法人全体ではなく貴局単体の状況についてお答えください。

問5-1 薬剤師の募集状況及び採用状況についてご記入ください。（数字記入）

※それぞれ、新卒者等の「次年度採用予定者」の募集及び採用内定を含みます。

※数字記入が難しい場合は以下自由記載欄にご記載ください。

- 1) 薬剤師の募集人数
- 2) 薬剤師の応募人数
- 3) 薬剤師の採用内定人数
- 4) 薬剤師の採用人数
- 5) 上記のうち新卒者人数

問5-2 薬剤師の給与状況についてご記入ください。（数字記入）

- 1) 薬剤師の給与状況（基本給／月額）についてご記入ください。（数字記入）

※薬剤師の給与水準に関する調査です。貴局における現在の給与推移モデルをお答えください。

※賞与、諸手当等は含めないでください。

新卒採用（25歳）・35歳・45歳・55歳・60歳

- 2) 新卒の初任給（年収）を教えてください。（○は1つ）

1. 300万円以下 2. 301～350万円 3. 351～400万円 4. 401～450万円
5. 451～500万円 6. 501～550万円 7. 551～600万円 8. 601万円以上

問5-3 修学資金支援制度又は奨学金返還支援制度についてご記入ください。

- 1) 薬剤師を採用するにあたり、貴局独自の修学資金支援制度又は奨学金返還支援制度はありますか。（○は1つ）

※修学資金支援制度は、大学在学中の授業料等を支援するものです。

※大学卒業後、在学中に貸与を受けた奨学金の返還を支援するものです。

1. 修学資金支援制度 及び 奨学金返還支援制度のいずれもある
2. 修学資金支援制度のみある
3. 奨学金返還支援制度のみある
4. いずれの制度もない

- 2) これまでに修学資金支援制度を利用した入職者数は全部で何人ですか。(数字記入)
- 3) 修学資金支援制度について貸与中の学生は現在何人ですか。(数字記入)
- 4) これまでに奨学金返還支援制度を利用した入職者数は全部で何人ですか。(数字記入)

問5-4 大学薬学部 of 学生が行う実務実習を受け入れていますか。(○は1つ)

※令和6年度についてお答えください。

1. 県内大学及び県外大学の学生を受け入れて実習を実施
2. 県内大学の学生を受け入れて実習を実施
3. 県外大学の学生を受け入れて実習を実施
4. 実習の受入実績はない

問5-5 薬剤師確保のための取組事項等についてお答えください。

- 1) 薬剤師を確保するために取り組んでいることはありますか。(自由記載)
- 2) 薬剤師の採用にあたり、困っていることはありますか。(自由記載)
- 3) 薬剤師が不足する病院・薬局を支援するためには、どのような方策が有効であるとお考えですか。(自由記載)
- 4) 募集しても集まらない原因について考えられる原因があれば教えてください。(自由記載)

【県内病院】

回答者情報：メールアドレス、病院名称、病院所在地、職・氏名、連絡先（電話）、
病院が所在する2次保健医療圏

1. 貴院の基本情報

問1-1 貴院の概要についてお伺いします。

1) 救急医療体制（○は1つ）

1. 初期（初期救急医療体制） 2. 二次（入院を要する救急医療体制）
3. 三次（救命救急センター） 4. 体制なし

2) 承認等の状況（あてはまるもの全てに○）

1. 特定機能病院 2. 地域医療支援病院 3. 臨床研究中核病院
4. いずれにも該当しない

問1-2 許可病床数をお答えください。（数字記入）

1. 一般病床 2. 療養病床 3. 精神病床 4. 感染症病床 5. 結核病床 6. 全体

問1-3 貴院の全病棟数（看護単位）をお答えください。（数字記入）

問1-4 2024年10月末時点で貴院が届け出ている又は2024年10月の1か月間に算定している
診療報酬項目として該当するものをすべて回答してください。（あてはまるもの全てに○）

1. 病棟薬剤業務実施加算1 2. 病棟薬剤業務実施加算2 3. 薬剤管理指導料1
4. 薬剤管理指導料2 5. 退院時薬剤情報管理指導料
6. 退院時薬剤情報管理指導料・退院時薬剤情報管理指導連携加算
7. 小児入院医療管理料・退院時薬剤情報管理指導連携加算
8. 外来化学療法加算1 9. 外来化学療法加算2 10. 外来腫瘍化学療法診療料1
11. 外来腫瘍化学療法診療料2 12. 外来腫瘍化学療法診療料3
13. 外来腫瘍化学療法診療料・連携充実加算 14. がん薬物療法体制充実加算
15. 周術期薬剤管理加算 16. 術後疼痛管理チーム加算 17. がん患者指導管理料ハ
18. 薬剤総合評価調整加算 19. 抗菌薬適正使用体制加算 20. 薬剤業務向上加算
21. 上記のうち該当するものはない

問1-5 現在実施している業務でさらなる拡大が必要な業務、または現在実施していないが
新たに立ち上げが必要と考えている業務を教えてください。（あてはまるもの全てに○）

1. 病棟薬剤業務実施加算1 2. 病棟薬剤業務実施加算2 3. 薬剤管理指導料1
4. 薬剤管理指導料2 5. 退院時薬剤情報管理指導料
6. 退院時薬剤情報管理指導料・退院時薬剤情報管理指導連携加算
7. 小児入院医療管理料・退院時薬剤情報管理指導連携加算
8. 外来化学療法加算1 9. 外来化学療法加算2 10. 外来腫瘍化学療法診療料1
11. 外来腫瘍化学療法診療料2 12. 外来腫瘍化学療法診療料3
13. 外来腫瘍化学療法診療料・連携充実加算 14. がん薬物療法体制充実加算
15. 周術期薬剤管理加算 16. 術後疼痛管理チーム加算 17. がん患者指導管理料ハ
18. 薬剤総合評価調整加算 19. 抗菌薬適正使用体制加算 20. 薬剤業務向上加算

21. 上記のうち該当するものはない

問1-6 前問の選択肢以外に必要と考えている業務があればご記入ください。（自由記載）

問1-7 次の診療報酬項目の算定を実施していない場合、その理由（マンパワーが足りない、病院経営層の方針、運用方法が分からない、業務拡大対象ではない、算定要件外、その他）を教えてください。（それぞれ1つに○）

1. 病棟薬剤業務実施加算 1 2. 病棟薬剤業務実施加算 2 3. 薬剤管理指導料 1
4. 薬剤管理指導料 2 5. 退院時薬剤情報管理指導料
6. 退院時薬剤情報管理指導料・退院時薬剤情報管理指導連携加算
7. 小児入院医療管理料・退院時薬剤情報管理指導連携加算
8. 外来化学療法加算 1 9. 外来化学療法加算 2 10. 外来腫瘍化学療法診療料 1
11. 外来腫瘍化学療法診療料 2 12. 外来腫瘍化学療法診療料 3
13. 外来腫瘍化学療法診療料・連携充実加算 14. がん薬物療法体制充実加算
15. 周術期薬剤管理加算 16. 術後疼痛管理チーム加算 17. がん患者指導管理料ハ
18. 薬剤総合評価調整加算 19. 抗菌薬適正使用体制加算 20. 薬剤業務向上加算

2. 薬剤師の確保状況等についてお伺いします。

問2-1 貴院における医療法に基づく薬剤師法定必要数（薬剤師標準数）をご記入ください。（数字記入）

問2-2 貴院における、2024年10月末時点における、1) 薬剤師の定員（法定の定員ではなく貴院が定める定員をご記載ください）。

また定員を定めていない場合、現在の薬剤師数に、現在募集している薬剤師数を加算した人数）、2) 薬剤師数（休職を除き、派遣薬剤師を含む）、3) 薬剤部内の薬剤師以外の職員数をご記入ください。（数字記入）

また、4) 県内出身薬剤師数（常勤、非常勤（実人数））及び、5) 県外出身薬剤師数（常勤、非常勤（実人数））をご記入ください。（数字記入）

※常勤換算数の算出方法：「職員の1週間の契約上の労働時間÷貴院の1週間の所定労働時間」にて算出し、小数点以下第2位を四捨五入してください（以降の設問でも同様）。

※本設問は、治験・臨床研究、医療安全管理等の業務に従事する薬剤師や管理職の薬剤師を含むものとしてお答えください。

問2-3 次の取組について、貴院の薬剤部門での実施・検討状況（実施済み、一部実施済み、実施予定あり、薬剤師が確保できれば実施したい、実施予定なし）をお答えください。（それぞれ1つに○）

- 1) 24時間対応（当直（宿直）対応） 2) 24時間対応（オンコール対応）
- 3) 病棟業務 4) チーム医療への参画 5) 地域での多職種連携（薬薬連携含む）
- 6) 外来化学療法 7) 薬剤師外来 8) 治療薬物モニタリング（TDM）
- 9) 医薬品情報管理（D I）専門部署の設置 10) 医療安全管理部門業務への参画
- 11) タスク・シフト／シェアの実施
- 12) その他、薬剤師が確保できれば実施したい業務（自由記載）

上記4)において「実施済み」または「一部実施済み」と回答した場合のチーム医療の名称（あてはまるもの全てに○）、検討状況（参加している、参加したいができていない、参加していない、施設にチームが設置されていない：それぞれ1つに○）

- 1) 感染対策 2) 栄養サポート 3) 糖尿病 4) 緩和ケア 5) 褥瘡管理
- 6) 救急医療 7) 抗菌薬適正使用 8) 術後疼痛管理 9) その他（自由記載）

問2-4 現在、薬剤師は充足しているとお考えですか。（それぞれ○は1つ）

- 1) 現在の定員（定員を設定していない場合には、現在の薬剤師数に、現在募集している薬剤師数を加算した人数）を前提とした場合の充足状況
 1. 足りている 2. やや足りない 3. 全く足りない
- 2) 需要があり業務を拡大したい場合や、現在薬剤師の人材不足のため実施できていない業務を今後、実施することを前提とした場合の充足状況
 1. 足りている 2. やや足りない 3. 全く足りない

問2-5 貴院にとって業務上必要と考える薬剤師の総数（定員数によらない）を、以下に記載する1)に示す前提に従い、常勤職員、非常勤職員（常勤換算）に分けてお答えください。（数字記入）

- 1) 需要があり業務を拡大したい場合や、現在薬剤師の人材不足のため実施できていない業務を今後、実施することを前提とした場合（問2-3で「4. 薬剤師が確保できれば実施したい」を選択した業務を含め実施するとした場合）に必要と考える薬剤師数の総数

問2-6 貴院の経営層との間で、薬剤師の充足状況の認識が共有されていますか。また、薬剤師確保の方針（確保する目標薬剤師数や確保時期など）は一致していますか。（○は1つ）

1. 共有し 薬剤師確保の方針も一致している
2. 共有しているが 薬剤師確保の方針は一致していない
3. 共有していない

3. 薬剤師の勤務状況についてお伺いします。

問3-1 2024年10月1か月間に貴院で勤務した全ての薬剤師（休職中の者を除き、派遣薬剤師、1か月の途中に入職した者、退職した者を含む）を対象として、2024年10月31日（退職した者については退職時点）における以下の事項をお答えください。

- 1) 勤務形態（10月31日時点）（1つ記入） 1. 常勤 2. 非常勤
- 2) 性別（10月31日時点）（1つ記入） 1. 男性 2. 女性 3. 回答しない
- 3) 年齢階級（10月31日時点）（1つ記入）
 1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代以上

4. 薬剤師の採用状況等についてお伺いします。法人全体ではなく貴院単体の状況についてお答えください。

問4-1 薬剤師の募集状況及び採用状況についてご記入ください。（数字記入）

※それぞれ、新卒者等の「次年度採用予定者」の募集及び採用内定を含みます。

※数字記入が難しい場合は以下自由記載欄にご記載ください。

- 1) 薬剤師の募集人数
- 2) 薬剤師の応募人数
- 3) 薬剤師の採用内定人数
- 4) 薬剤師の採用人数
- 5) 上記のうち新卒者人数

問4-2 薬剤師の給与状況についてご記入ください。（数字記入）

1) 薬剤師の給与状況（基本給／月額）についてご記入ください。（数字記入）

※薬剤師の給与水準に関する調査です。貴院における現在の給与推移モデルをお答えください。

※賞与、諸手当等は含めないでください。

新卒採用（25歳）・35歳・45歳・55歳・60歳

2) 新卒の初任給（年収）を教えてください。（○は1つ）

1. 300万円以下 2. 301～350万円 3. 351～400万円 4. 401～450万円
5. 451～500万円 6. 501～550万円 7. 551～600万円 8. 601万円以上

問4-3 修学資金支援制度又は奨学金返還支援制度についてご記入ください。

1) 薬剤師を採用するにあたり、貴局独自の修学資金支援制度又は奨学金返還支援制度はありますか。（○は1つ）

※修学資金支援制度は、大学在学中の授業料等を支援するものです。

※大学卒業後、在学中に貸与を受けた奨学金の返還を支援するものです。

1. 修学資金支援制度 及び 奨学金返還支援制度のいずれもある
2. 修学資金支援制度のみある
3. 奨学金返還支援制度のみある
4. いずれの制度もない

2) いずれかの支援制度がある場合は、具体的な「期間・金額・人数」をお答えください。
（自由記載）

3) これまでに修学資金支援制度を利用した入職者数は全部で何人ですか。（数字記入）

4) 修学資金支援制度について貸与中の学生は現在何人ですか。（数字記入）

5) これまでに奨学金返還支援制度を利用した入職者数は全部で何人ですか。（数字記入）

問4-4 大学薬学部が学生が行う実務実習を受け入れていますか。（○は1つ）

※令和6年度についてお答えください。

1. 県内大学及び県外大学の学生を受け入れて実習を実施
2. 県内大学の学生を受け入れて実習を実施
3. 県外大学の学生を受け入れて実習を実施
4. 実習の受入実績はない

問4-5 薬剤師確保のための取組事項等についてお答えください。

1) 薬剤師を確保するために取り組んでいることはありますか。（自由記載）

2) 薬剤師の採用にあたり、困っていることはありますか。（自由記載）

3) 薬剤師が不足する病院・薬局を支援するためには、どのような方策が有効であるとお考えですか。（自由記載）

4) 充足していない場合、考えられる理由があれば記載してください。（あてはまるもの全てに○）

1. 応募がない
2. 離職率が高い（結婚退職・子育て退職・介護退職・病気退職・定年退職・勤続期間が短い）
3. その他（自由記載）

問4-6 薬剤師の派遣についてお答えください。

- 1) 貴施設での業務維持・向上のため、他施設より薬剤師の派遣（出向）が可能となった場合、派遣を必要としますか。（どちらかに○）
 1. はい 2. いいえ
- 2) 1) で「はい」の場合、以下の人数（1名・2名）が貴施設に派遣された際には、どのような業務を推進したいですか。最もあてはまるものに◎（1つのみ選択）、あてはまるものに○（複数選択可）
 1. 中央業務の充実
 2. チーム医療への参加（チーム名： ）
 3. 病棟薬剤業務実施加算の算定
 4. 薬剤管理指導料の件数増加
 5. その他（ ）

問4-7 認定薬剤師についてお答えください。

1. 日病薬病院薬学認定薬剤師（日本病院薬剤師会）
 2. 研修認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）
 3. がん専門薬剤師（日本医療薬学会）
 4. がん薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）
 5. がん薬物療法専門薬剤師（日本病院薬剤師会）
 6. 緩和医療専門薬剤師（日本緩和医療薬学会）
 7. 緩和薬物療法認定薬剤師（日本緩和医療薬学会）
 8. 感染制御専門薬剤師（日本病院薬剤師会）
 9. 感染制御認定薬剤師（日本病院薬剤師会）
 10. 抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会）
 11. 精神科専門薬剤師（日本病院薬剤師会）
 12. 精神科薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）
 13. 妊婦・授乳婦専門薬剤師（日本病院薬剤師会）
 14. 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）
 15. H I V感染症専門薬剤師（日本病院薬剤師会）
 16. H I V感染症薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）
 17. 漢方薬・生薬認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）
 18. 小児薬物療法認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）
 19. 日本糖尿病療養指導士（日本糖尿病療養指導士認定機構）
 20. N S T専門療法士（薬剤師）（日本臨床栄養代謝学会）
 21. 医療情報技師（日本医療情報学会）
- 2) その他、認定資格をお持ちの薬剤師について教えてください。（自由記載）
- 例：腎臓病薬物療法認定薬剤師 2 人、医療薬学専門薬剤師 1 人

【県内の薬局、病院に勤務する40歳未満の薬剤師】

1. ご回答者様の基本情報についてお伺いします。

問1-1 薬剤師名簿登録番号をご記入ください。(数字記入)

問1-2 性別をお答えください。(○は1つ) (任意回答)

1. 男性 2. 女性 3. 回答しない

問1-3 年齢をお答えください。(数字記入)

問1-4 高校卒業時に居住していた都道府県名をお答えください。(自由記述)

問1-5 薬剤師免許取得の際に薬学課程を修めた大学の所在都道府県名をお答えください。(自由記述)

問1-6 問1-5でお答えいただいた大学の運営者の種別をお答えください。(○は1つ)

1. 国立 2. 公立 3. 私立

問1-7 現在の勤務先をお答えください。(○は1つ)

1. 病院 2. 薬局

問1-8 現在の勤務形態をお答えください。(○は1つ)

1. 常勤 2. 非常勤 3. レジデント・研修職員(病院勤務者)

問1-9 現在の勤務先での勤務年数をお答えください。(数字記入)

問1-10 現在の勤務先以外も含む病院および薬局での勤続年数(数字記入)

※例：病院に計10年、薬局に計2年勤めた場合には、12年とお答えください。

問1-11 現在の勤務先に勤務する直前に勤務していた業態をお答えください。(あてはまるもの全てに○)

1. 病院 2. 薬局 3. 病院、薬局以外 4. ない(学生)

問1-12 これまでの病院・薬局への転職回数をお答えください。

※1 同一法人内や法人間での異動や出向は含めないでください。

※2 転職したことがない場合、0回と記入してください。

問1-13 奨学金についてお伺いします。

1) 貸与型の奨学金を借りたことがありますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

2) 1) で「はい」の場合、その返済総額(既に返済した分も含めた総額)、年間の返済額(おおよその平均額)、返済期間、どちらから借りたかについてお答えください。

問1-14 現在、子育てや家族等の介護を行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

1) 子育て

1. はい(乳幼児) 2. はい(小学生) 3. はい(中学高校生) 4. いいえ

2) 家族等の介護

1. はい(自宅) 2. はい(施設) 3. いいえ

2. 現在の仕事等への意識についてお伺いします。

2-1. 仕事等への全般的な意識についてお伺いします。

問2-1 以下1)～5)に示す各事項に対する満足度(大変満足している、かなり満足している、あまり満足していない、全く満足していない)をお伺いします。(それぞれ○は1つ)

- 1) 仕事全般（勤務条件や環境等を含む）
- 2) 現在の仕事への「やりがい」
- 3) 現在の（仕事以外の）「生活」
- 4) 現在勤務している「地域」
- 5) 現在勤務している「業態（病院・薬局）」

問2-2 現在の勤務先に就職した際の初年度の年収、昇給のペース、業務内容・やりがいについて、現在の勤務先を就職先として決める時点で、どの程度（十分に知っていた、おおよそは知っていた、全く知らなかった）ご存じでしたか。（それぞれ○は1つ）

- 1) 就職初年度の年収
- 2) 昇給のペース
- 3) 業務内容・やりがい

問2-3 現在の勤務先に就職した際の初年度の年収、昇給のペース、業務内容・やりがいは、現在の勤務先を就職先として決める時点で想像していたものと比べて、違いはありましたか。（それぞれ○は1つ）

- 1) 就職初年度の年収（高かった、ほぼ同様だった、低かった）
- 2) 昇給のペース（高かった、ほぼ同様だった、低かった）
- 3) 業務内容・やりがい（違いはなかった、違いがあった）

問2-4 問2-3の1) 2) で「3. 低かった」、3) で「2. 違いがあった」とお答えの場合、お答えください。

現在の勤務先に就職した際の初年度の年収、昇給のペース、業務内容・やりがいが想像と違っていたことを理由として、今後、転職することをお考えですか。（それぞれ○は1つ）

- 1) 就職初年度の年収（考えている、考えていない）
- 2) 昇給のペース（考えている、考えていない）
- 3) 業務内容・やりがい（考えている、考えていない）

2-2. 勤務先や勤務地域への意識等についてお伺いします。

問2-5 ご回答者様の出身地や現在の勤務地は、それぞれが所在する都道府県内の①都市部（市）、②町村（人口1万人以上）、③町村（人口1万人未満）のいずれに所在していますか。（それぞれ○は1つ）

- 1) 出身地
- 2) 現在の勤務地

問2-6 現在の勤務地は以下の1)～6)のうち、どの地域に該当しますか。

またそのうち、現在の勤務地が1)～6)であることが現在の勤務地で勤務する決め手になったものがある場合には、最もあてはまるものを1つ選んでください。

- 1) 出身地（実家や親類の居住地に近い等）
- 2) 配偶者など家族の勤務地に近い地域
- 3) 出身大学に近い地域
- 4) 知人の勤務地域もしくは居住地域
- 5) 複数勤務地がある中、勤務先法人が決めた勤務地
- 6) その他

問2-7 次に掲げる事項のうち、現在の勤務先・勤務地を就職先として決める前に、①重視していた点、②不安に感じていた点、また就職後に③不安が解消した点、④魅力を感じている点、⑤現在、転職を検討する要因になっている不満を感じる点について、お答えください。（あてはまるもの全てに○）

仕事面

- 1) 給与水準 2) 昇給ペース 3) 勤務時間の長さ 4) 短時間勤務のしやすさ
- 5) 勤務日や勤務時間を柔軟に設定しやすいか 6) 付与された休暇日数
- 7) 休暇の取りやすさ 8) 通勤時間の長さ 9) 通勤の利便性 10) 業務内容
- 11) やりがい 12) 多職種との関係性 13) 上司や同僚からのサポート
- 14) 職場の人間関係 15) スキルアップのための研修制度 16) 副業のしやすさ
- 17) 福利厚生制度 18) 育休等の休業制度 19) 地域ならではの業務慣行
- 20) 特になし 21) その他 ()

生活面 (ご回答者様のお住まいや、お住まいの地域をご想定ください)

- 22) 自然災害が少ない地域か 23) 物価が安い
- 24) スーパー、金融機関などが整っているか 25) 医療体制が整っているか
- 26) 保育・教育環境が整っているか 27) 介護が行いやすい環境か
- 28) 住居が快適か 29) 公共交通機関が整っているか
- 30) 都市部へのアクセス性は良いか 31) 近所付き合いが良好か
- 32) 地域に同世代の住人が多いか
- 33) 趣味・娯楽などプライベートを充実させられるか
- 34) リフレッシュできる施設・環境があるか 35) 特になし
- 36) その他 ()

問2-8 現在の勤務先における仕事にやりがいを感じていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

問2-9 問2-8で「1. はい」とお答えの場合、お答えください。

現在の勤務先におけるやりがいについてお答えください。

またそのうち、ご回答者様が現在の勤務先で勤務する際の決め手になったものがある場合には、あてはまるものを上位3つまで選び○をつけてください。

- 1) 患者に密着した業務を行えること
- 2) 他職種と密に連携して業務を行えること
- 3) 薬剤師1人が担当する業務種類が多いこと
- 4) 多くの研修を受講できること
- 5) 多くの患者に対する調剤・薬学的管理等の業務を行えること
- 6) 限られた患者に対する調剤・薬学的管理等の業務を行えること
- 7) 希少な疾患にかかる調剤・薬学的管理等を行えること
- 8) 多くの種類の疾患にかかる調剤・薬学的管理等を行えること
- 9) 薬物療法におけるリスクマネジメント(医療安全)に貢献できること
- 10) 在宅業務を行えること
- 11) チーム医療を行えること
- 12) 高度な薬学管理を経験できること
- 13) 専門・認定薬剤師などの資格を取得できること
- 14) 臨床研究等を経験、実施できること
- 15) その他 ()

問2-10 どのような条件が整えば、①都市部（市）、②町村（人口1万人以上）、③町村（人口1万人未満）、④病院、⑤薬局に勤務してもよいとお考えですか。給与面、仕事面、生活面については、問2-7の選択肢を想定してお答えください。（あてはまもの全てに○）

- 1) 給与面（給与水準、昇給ベース）の条件
- 2) 仕事面（給与面以外）の条件
- 3) 生活面の条件
- 4) その他の条件
- 5) 条件によらず勤務しても良い
- 6) いずれの条件でも勤務したくない

問2-11 問2-5の「2）現在の勤務地」が「2. 町村（人口1万人以上）」「3. 町村（人口1万人未満）」であり、かつ過去に「都市部（市）」での勤務経験があったり、出身地が「都市部（市）」である方がお答えください。

都市部から「町村（人口1万人以上）」や「町村（人口1万人未満）」に勤務地を移動した年代（複数ある場合は初回のときの年代）や、移動のきっかけ、移動した理由についてお答えください。

- 1) 移動した年代（○は1つ）
 1. 20代
 2. 30代
 3. 40代
 4. 50代
 5. 60代
 6. 70代以上
- 2) 移動のきっかけは自らの意思ですか（○は1つ）
 1. 自らの意思である
 2. 自らの意思ではない（例：所属法人からの指示、家族の都合 等）

<2>で「1」と回答した場合、回答>

- 3) 移動した理由（あてはまもの全てに○）
 1. 給与面
 2. 仕事面（給与面以外）
 3. 生活面
 4. その他（ ）
 5. 特に理由はない
- 4) 同一世帯のうち、ご回答者様以外の人とともに移動しましたか（○は1つ）
 1. 移動した時点で二人以上世帯で、夫婦で移動した
 2. 移動した時点で二人以上世帯で、家族（夫婦＋子ども）で移動した
 3. 移動した時点で二人以上世帯で、ご回答者様が単身で移動した
 4. 移動した時点で単身世帯であった

3. 薬剤師が継続して働けるようにするための取組事例についてお伺いします。

問3-1 現在の勤務地や勤務先で、薬剤師が継続して働けるようにするための取組事例がございましたら、お教えください。

A)実施主体（勤務先、自治体、その他：あてはまるもの全てに○）

B)取組内容（自由記載）

- 1) 仕事面 例：資格取得のための支援
- 2) 生活面 例：子育てのための環境整備
- 3) その他

【県内の薬学部 に在籍する学生】

1. ご回答者様の基本情報についてお伺いします。

問1-1 学席番号をご記入ください。

問1-2 性別をお答えください。(○は1つ) (任意回答)

1. 男性 2. 女性 3. 回答しない

問1-3 年齢・学年をお答えください。(数字記入)

問1-4 高校卒業時に居住していた都道府県名をお答えください。(自由記述)

問1-5 奨学金についてお伺いします。

1) 貸与型の奨学金を借りていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

2) 1) で「はい」の場合、その貸与総額(既に貸与を受けた分も含めた総額)、年間の貸与額(おおよその平均額)、貸与期間についてもお答えください。奨学金の支援をどこで受けているか(自由記載)

3) 岩手県内での勤務を条件とした奨学金の返済支援があれば受けたいですか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

4) 3) ではいいの場合、どのくらいの期間であれば勤務してもよいとお考えですか。(○は1つ)

1. 2年まで 2. 3年まで 3. 5年まで 4. 6年以上
5. 期間にはこだわらない

2. 就職先についてお伺いします。

問2-1 就職を考えている業態について、お答えください。(あてはまるもの全てに○)

1. 病院 2. 診療所 3. 薬局 4. 店舗販売業 5. 卸売販売業

6. 医薬品製造販売業・製造業 7. 行政機関 8. その他()

問2-2 どのような条件を整えば、①都市部(市)、②町村(人口1万人以上)、③町村(人口1万人未満)、④病院、⑤薬局に勤務してもよいとお考えですか。給与面、仕事面、生活面については、問2-3の選択肢を想定してお答えください。(あてはまるもの全てに○)

1) 給与面(給与水準、昇給ベース)の条件

2) 仕事面(給与面以外)の条件

3) 生活面の条件

4) その他の条件

5) 条件によらず勤務しても良い

6) いずれの条件でも勤務したくない

問2-3 次に掲げる事項のうち、就職先を決める際に「仕事面」及び「生活面」の①重視する点、②不安に感じる点、「勤務地」及び「やりがい」の①重視する点について、お答えください。(あてはまるもの全てに○)

仕事面

- 1) 給与水準 2) 昇給ペース 3) 勤務時間の長さ 4) 短時間勤務のしやすさ
- 5) 勤務日や勤務時間を柔軟に設定しやすいか 6) 付与された休暇日数
- 7) 休暇の取りやすさ 8) 通勤時間の長さ 9) 通勤の利便性 10) 業務内容
- 11) やりがい 12) 多職種との関係性 13) 上司や同僚からのサポート
- 14) 職場の人間関係 15) スキルアップのための研修制度 16) 副業のしやすさ
- 17) 福利厚生制度 18) 育休等の休業制度 19) 地域ならではの業務慣行
- 20) キャリアパスの一環として 21) その他 ()

生活面

- 22) 自然災害が少ない地域か 23) 物価が安い
- 24) スーパー、金融機関などが整っているか 25) 医療体制が整っているか
- 26) 保育・教育環境が整っているか 27) 介護が行いやすい環境か
- 28) 住居が快適か 29) 公共交通機関が整っているか
- 30) 都市部へのアクセス性は良いか 31) 近所付き合いが良好か
- 32) 地域に同世代の住人が多いか
- 33) 趣味・娯楽などプライベートを充実させられるか
- 34) リフレッシュできる施設・環境があるか 35) 特にな
- 36) その他 ()

勤務地

- 37) 出身地（実家や親類の居住地に近い等） 38) 出身大学に近い地域
- 39) 知人の勤務地域もしくは居住地域 40) 特にな
- 41) その他 ()

やりがい

- 42) 患者に密着した業務を行えること 43) 他職種と密に連携して業務を行えること
- 44) 薬剤師1人が担当する業務種類が多いこと 45) 多くの研修を受講できること
- 46) 多くの患者に対する調剤・薬学的管理等の業務を行えること
- 47) 限られた患者に対する調剤・薬学的管理等の業務を行えること
- 48) 希少な疾患にかかる調剤・薬学的管理等を行えること
- 49) 多くの種類の疾患にかかる調剤・薬学的管理等を行えること
- 50) 薬物療法におけるリスクマネジメント（医療安全）に貢献できること
- 51) 在宅業務を行えること 52) チーム医療を行えること
- 53) 高度な薬学管理を経験できること
- 54) 専門・認定薬剤師などの資格を取得できること
- 55) 臨床研究等を経験、実施できること 56) その他 ()

問2-4 転職を含むキャリアアップを考えていますか。はいと回答した場合は、具体的に想定している内容を記載してください。

1. はい 2. いいえ

問2-5 岩手県で薬剤師として働くことをどう思いますか。（自由記載）

